

第3回廿日市市協働によるまちづくり審議会 次第

日時：令和8年3月11日（水）18時30分～20時30分
会場：廿日市市役所 2階 201会議室

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

- (1) 第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画（案）について
- (2) 答申（案）について

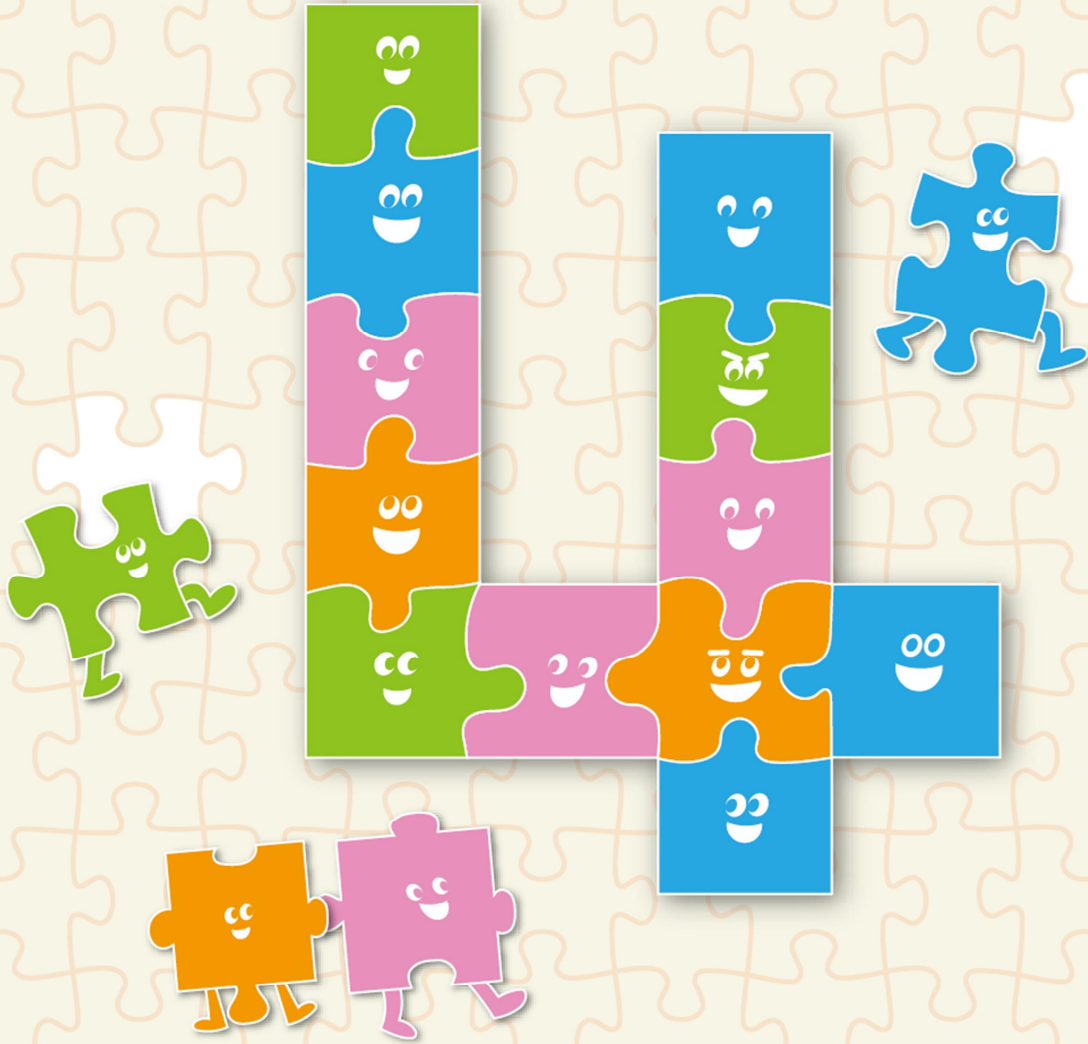
4 答申書手交式

5 その他

6 地域振興部長挨拶

7 閉会

第4期 廿日市市協働によるまちづくり推進計画



令和8年度(2026年度)～令和12年度(2030年度)

ちょうどいい、みつけた。

廿日市市

はつかいちし

目次

第1章	計画の概要	1
1	計画の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画の期間	1
4	計画の体系	2
5	実効性の確保	3
第2章	協働によるまちづくりの基本原則等について	4
第3章	協働によるまちづくりを推進する仕組みと取組方針	7
(1)	特性を生かしたまちづくり	8
(2)	情報発信による信頼関係づくり	10
(3)	人づくり	12
(4)	評価及び支援	16
	参考事例編	18
	資料編	22

協働によるまちづくりとは

市民、まちづくり活動団体、事業者、市（行政）など、多様な主体がつながり、信頼関係を築き、共通する目的に向かって、対等な立場で協力しながらまちづくりを進めることをいいます。それぞれが得意なことを生かし、役割分担しながら取り組むことで、より効果的にまちづくりを進めることができます。

*本計画に登場する色とりどりのパズルのピースは多様な主体を表しています



1 計画の趣旨

本市では、平成24年3月に制定した「廿日市市協働によるまちづくり基本条例（以下「条例」という。）」に基づき「廿日市市協働によるまちづくり推進計画（以下「計画」という。）」を策定し、めざすまちの姿（新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き！」と言えるまち）の実現に取り組んでいます。

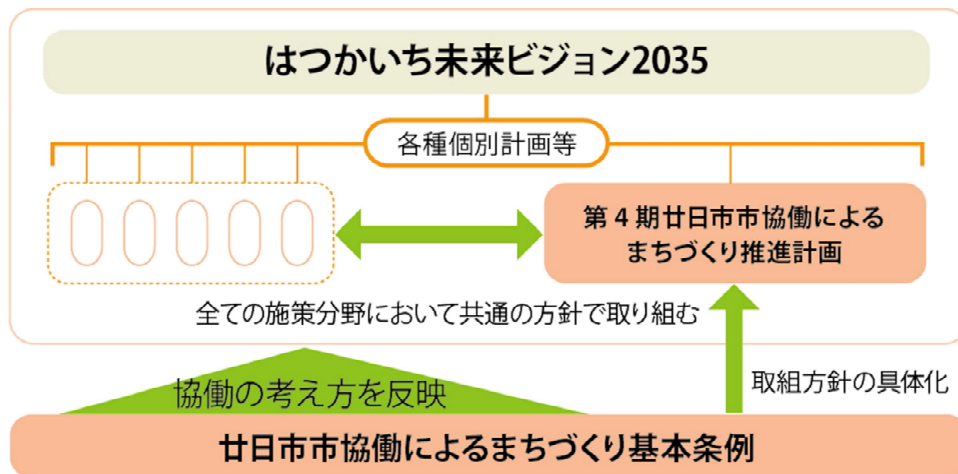
これまでの3期にわたる計画では、市の職員の協働に対する意識強化をはじめ、さまざまな人や組織の力を、日々の仕事（公共の取組）に生かし、より豊かな成果につなげていく「協働型」の取組を実践し、評価や検証、改善を繰り返しながら、協働による持続可能なまちづくりを推進してきました。

本市のまちづくりに関わるさまざまな人や組織の協力のもと分析・評価した「協働によるまちづくりの現状」を踏まえ、これまでの取組を継承・発展させるとともに、「協働によるまちづくり」を確実に推進していくための取組方針を新たに定めた、第4期の計画を策定します。

2 計画の位置付け

本市の総合計画である『はつかいち未来ビジョン2035』は、条例に基づき、多様な市民参画の機会を設け、まちづくりの課題やニーズを共有・把握し、反映することを基本的な考え方として、策定しています。

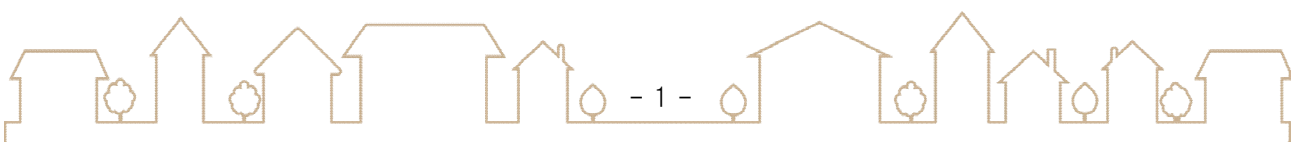
また、「多様な主体によるまちづくり」を、まちの将来像の実現に向けた「大切に考える考え方」として設定し、全ての施策分野に共通する重要な視点として位置付けています。



3 計画の期間

計画の期間は、『はつかいち未来ビジョン2035前期基本計画』に合わせ、令和8年度から令和12年度までの5か年とします。

なお、社会情勢などの変化に対応するため、必要に応じて見直しを行う場合があります。



4 計画の体系

条例に規定する「協働によるまちづくりの基本原則」のもとに「協働によるまちづくりを推進する仕組み」ごとの「取組方針」を示し、実践することで、条例に掲げる「めざすまちの姿」の実現をめざします。

めざすまちの姿

新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き!」と言えるまち

協働によるまちづくりを推進する仕組み(1) 特性を生かしたまちづくり

【取組方針】

- まちづくりの拠点の体制及び環境整備
(ソフト及びハード)
- 円卓会議の推進
- ビジネスの手法を取り入れたまちづくり
活動の推進

協働によるまちづくりを推進する仕組み(3) 人づくり

【取組方針】

- 市民相互の学び合いへの支援
- 子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成
- 誰もがまちづくりに参加・参画しやすい
環境づくり
- 協働によるまちづくりの担い手・支え手と
してふさわしい職員の育成

協働によるまちづくりを推進する仕組み(2) 情報発信による信頼関係づくり

【取組方針】

- 受け手の立場に立った情報発信・
共有の推進

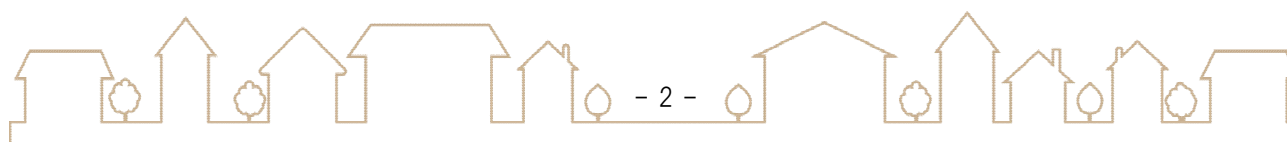
協働によるまちづくりを推進する仕組み(4) 評価及び支援

【取組方針】

- 適切な評価及び支援

【協働によるまちづくりの基本原則】 ※P.5 参照

- 1 誰でもまちづくりに取り組むことができます
- 2 互いの自主性を尊重しながら取り組みます
- 3 互いの自立性を尊重し、対等な関係で取り組みます
- 4 それぞれの地域性を大切にしながら取り組みます
- 5 情報の共有を図りながら取り組みます
- 6 互いに信頼関係を築いて取り組みます
- 7 次代につながる人づくりをしながら取り組みます



5 実効性の確保

本計画では、市の取組によって直接的・間接的に、市民の意識や行動に表れる変化（仮説）を目標とし、「計画全体のめざすまち指標と目標値」と「協働によるまちづくりを推進する仕組みごとの成果指標と目標値」として設定しました。

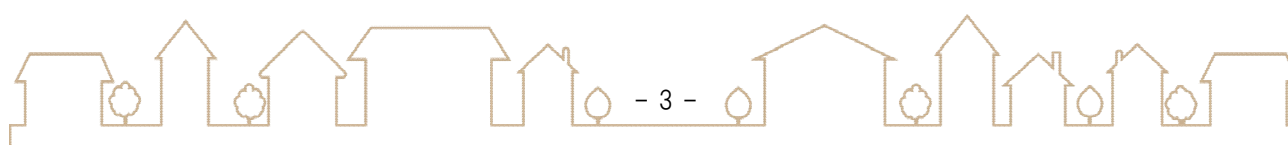
また、協働によるまちづくりを実効性のあるものとするため、「協働によるまちづくり審議会」が主体となり、各年度における指標の数値の推移や市の取組等をもとに、計画の実施状況について評価・検証し、必要に応じた取組の見直しを行います。

【めざすまち指標と目標値】

めざすまち指標	現況値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
市に自分のまちとしての 愛着がある市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	76.7%	80.0%

めざすまち指標の考え方

条例に規定する「協働によるまちづくりの基本原則」のもとに「協働によるまちづくりを推進する仕組み」ごとの「取組方針」を示し、着実に実践することで、「廿日市市」に自分のまちとしての愛着を持つ市民の割合が高まり、「めざすまちの姿」の実現につながると考えます。



本章では、本計画がめざしているまちの姿や使用する用語の定義、協働によるまちづくりを進める上での市民の役割や市の責務など、本計画に掲げた取組方針を実行する上で理解しておくべき基本的かつ重要な事項について、条例の前文から第6条を掲載しています。

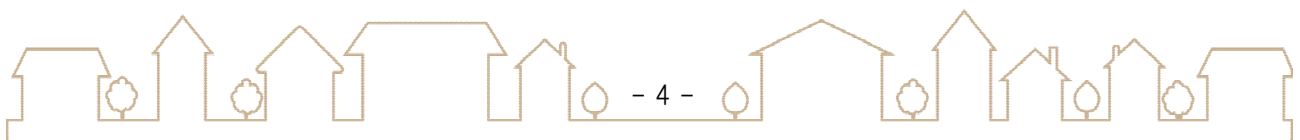
前文

私たちが暮らす廿日市市は、海から山に至る豊かな自然、歴史、伝統、文化、産業に恵まれた素晴らしいまちです。

平成の合併により、五つの市町村が一つのまちになったことで、これまで培われてきた地域特性を生かしながら、一つの家族のようなつながりを築く機会を得ることができました。

私たちが、これからもこのまちで安心して安全に暮らすためには、和みがあってあたたかい笑顔のつながりが欠かせません。また、まちの元気を未来につなげるために、子どもや若者などとともに、市民主体のまちづくりをより一層進めていくことが必要です。

新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き！」と言えるまちづくりを進めるため、この条例を定めます。



条文

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、廿日市市における協働によるまちづくりに関し、基本的な事項を定めることにより、地域自治を推進し、つながりを大切にした暮らしやすい豊かな地域社会を実現することを目的とします。

(定義)

第2条 この条例における用語の意味は、次のとおりとします。

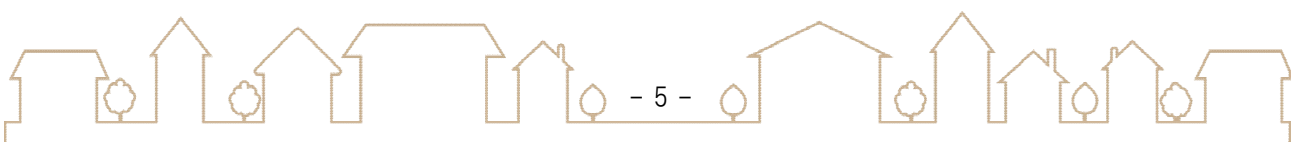
- (1) まちづくり 廿日市市に存する課題の解決を図り、暮らしやすい豊かな地域社会をつくるために行われる公共の利益を増進させる取組をいいます。
- (2) 市民 次に掲げるものをいいます。
 - ア 市内に住所を有する個人
 - イ 市内に事務所又は事業所を有する個人及び団体
 - ウ 市内の事務所又は事業所に勤務する個人
 - エ 市内の学校に在学する個人
 - オ 市内においてまちづくりに取り組む個人及び団体
- (3) まちづくり活動団体 地縁又は共通の関心に基づくつながりによりまちづくりに取り組む団体をいいます。
- (4) 市 廿日市市の執行機関をいいます。
- (5) 協働 市民、まちづくり活動団体及び市がお互いを理解し、信頼するとともに、自主性を尊重して共通する目的に対し協力することをいいます。
- (6) 市域 廿日市市の区域をいいます。
- (7) 地域 市域において、平成15年合併前における旧市町村及び平成17年合併前における旧町の区域をいいます。
- (8) 地区 おおむね小学校区（大野地域においては、区）を単位とする区域をいいます。

第2章 協働によるまちづくりの基本原則等

(基本原則)

第3条 協働によるまちづくりの基本原則は、次のとおりとします。

- (1) 誰でもまちづくりに取り組むことができます。
- (2) 互いの自主性を尊重しながら取り組みます。
- (3) 互いの自立性を尊重し、対等な関係で取り組みます。
- (4) それぞれの地域性を大切にして取り組みます。
- (5) 情報の共有を図りながら取り組みます。
- (6) 互いに信頼関係を築いて取り組みます。
- (7) 次代につながる人づくりをしながら取り組みます。



(市民の役割)

第4条 市民は、自らがまちづくりの担い手であることを認識し、まちづくりに関わるよう努めるものとします。

2 市民は、自らが持つ知識、技能等を積極的に生かしてまちづくりに取り組むよう努めるものとします。

3 まちづくり活動団体は、市民の参加意思を尊重し、互いのつながりを生かしてまちづくりに取り組むよう努めるものとします。

4 第2条第2号イに規定する市民は、地域社会の一員として、企業活動を通じて地域活性化に寄与するよう努めるものとします。

(市の責務)

第5条 市は、協働によるまちづくりに関する施策を総合的かつ計画的に実施します。

2 市は、まちづくりの課題、市民の要望等に適切に対応することができるよう、機能的かつ効果的な組織運営を行います。

3 市は、市民及びまちづくり活動団体がまちづくりに積極的に取り組むことができるよう、施設の整備、情報の共有、交流の機会の提供その他の環境の整備を行います。

4 市の職員は、市民全体の奉仕者であるとともに、市民の一員であることを自覚し、まちづくりに積極的に取り組みます。

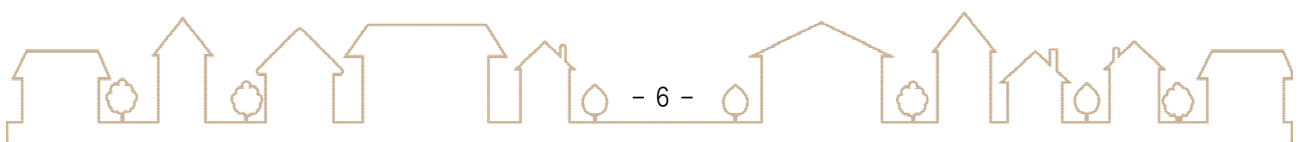
第3章 協働によるまちづくり推進計画

(協働によるまちづくり推進計画)

第6条 市長は、協働によるまちづくりを推進するための計画(以下「推進計画」といいます。)を策定します。

2 市長は、推進計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、市民の意見を聴きます。

3 市長は、推進計画を策定し、又は変更したときは、速やかにこれを公表します。



【第3章の見方】

条例に規定している「協働によるまちづくりを推進する仕組み」について、条文を用いて説明しています。

まちづくり活動団体等へのアンケート調査や市民からの意見等を踏まえ、「協働によるまちづくりを推進する仕組み」が適切に機能しているか等について「現状分析」を記載しています。

現状分析を踏まえ、本計画期間中に特に注力すべき内容等を「取組方針」として記載しています。
※取組の主体は市（行政）

成果指標は、単なる実施回数等ではなく、主に「市民の意識や行動の変化」を測ることを目的としています。

協働によるまちづくりを推進する仕組み

1 特性を生かしたまちづくり

条文

第4章 協働によるまちづくりを推進する仕組み
第1節 特性を生かしたまちづくり

(地区、地域及び市域におけるまちづくり)

第7条 地区、地域及び市域におけるまちづくりは、市民及びまちづくり活動団体が交流し、市と連携を図りながら、それぞれの特性を生かして進められるものとします。

2 地区、地域及び市域におけるまちづくりの拠点は、市民センター、支所（廿日市地域においては、本庁）、市民活動センター等※とします。

(円卓会議)

第8条 円卓会議は、市民、まちづくり活動団体及び市が、まちづくりに関する情報の共有、課題の解決等を図るため、対等な立場で話し合う場とします。

2 市民、まちづくり活動団体及び市は、連携を図りながら、区域の特性を生かしたまちづくりを行うために、必要に応じて円卓会議を開催するものとします。

※地区集会所（大野地域）、総合健康福祉センター

現状分析

取組方針

成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
多様な主体が連携して、地域課題の解決に向けた取組が行われていると思う市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	17.7%	30.0%

成果指標の考え方

①②③の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、多様な主体の連携・協力が促され、地域課題の解決に向けた取組が行われていると感じる市民の割合が高まっていくと考えます。



特性を生かしたまちづくり

条文

第4章 協働によるまちづくりを推進する仕組み 第1節 特性を生かしたまちづくり

(地区、地域及び市域におけるまちづくり)

第7条 地区、地域及び市域におけるまちづくりは、市民及びまちづくり活動団体が交流し、市と連携を図りながら、それぞれの特性を生かして進められるものとします。

2 地区、地域及び市域におけるまちづくりの拠点は、市民センター、支所(廿日市地域においては、本庁)、市民活動センター等*とします。

(円卓会議)

第8条 円卓会議は、市民、まちづくり活動団体及び市が、まちづくりに関する情報の共有、課題の解決等を図るため、対等な立場で話し合う場とします。

2 市民、まちづくり活動団体及び市は、連携を図りながら、区域の特性を生かしたまちづくりを行うために、必要に応じて円卓会議を開催するものとします。

*地区集会所(大野地域)、総合健康福祉センター

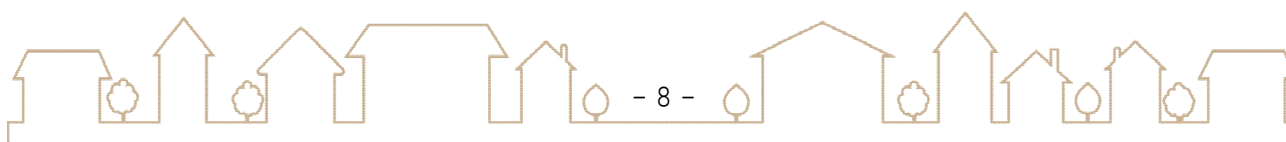
現状分析

市民が取り組むまちづくり活動において、多様な主体がつながり連携・協力することで、「活動を通じて地域内での知り合いが増えた」、「協働した相手との新たな活動が生まれた」、「活動の広報がしやすくなり、集客が増えた」など、協働によるさまざまな効果が生まれてきています。

また、まちづくりの拠点については、市が各種事業等を通じてまちづくりに取り組むことはもちろん、市民のまちづくり活動の主な活動場所や相談先としても活用されています。

一方で、市民からは、まちづくりの拠点の運営体制等について、「気軽に、職員に相談できる雰囲気が必要」、「十分な引き継ぎが行われなまま職員が異動すると、一緒に進めてきた活動が停滞してしまうことがある」、「市の職員は、もっと地域とのつながりをもつべき」など、さまざまな課題の声が挙がっており、改善が求められています。

また、多様な主体がつながり、まちづくりについて話し合う場「円卓会議」については、開催または参加したことがある市民の多くが、その有効性を感じている一方で、まちづくりに関わる市民からは、「もっと多様な主体が話し合う場が必要」、「同じ目的をもった人や団体等とつながりたい」、「収益を得ながらまちづくり活動を進める方法(コミュニティビジネス等)についての情報が欲しい」など、他の主体とのつながりや情報共有の場を求める声が少なくないことから、「円卓会議」の十分な認知や活用にはつながっていない状況がうかがえます。



取組方針

①まちづくりの拠点の体制及び環境整備（ソフト及びハード）

- ・市民センター、支所（廿日市地域においては、本庁）、市民活動センター等のまちづくりの拠点が、より一層連携し、それぞれの拠点が実践したり把握しているまちづくりに関する情報を共有することで、市民の期待や要望に、より適切かつ柔軟に対応できるよう、体制の整備に取り組みます。
- ・まちづくりの拠点について、計画的な改修や修繕等を行うとともに、設備や機能の充実を図っていくことで、より多くの人たちが、積極的かつ安全・安心にまちづくり活動に取り組めるよう、環境の整備に取り組みます。

※「まちづくりの拠点」となる施設について、47 ページで紹介しています

②円卓会議の推進

- ・さまざまな場面で開催される円卓会議に、より多様な人たちが集い、互いの取組やまちづくりへの思いを安心して対等な立場で話し合うことができるよう、会議のコーディネートやファシリテート、開催に関する情報発信等、市民の自主性・自立性を尊重した支援に取り組みます。
- ・円卓会議の開催を、より効果的に支援することで、その有効性を市民と共有し、更なる実践の広がりにつなげていくため、市の職員一人ひとりが円卓会議への理解や知識を深めるとともに、開催や運営支援に必要な能力やスキルの習得に取り組みます。

※「円卓会議」について、19 ページに参考事例を紹介しています

③ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動の推進

市民主体のまちづくり活動を、より効果的かつ持続可能な活動にしていくための一つの手段として、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスなど、無償のボランティア以外の運営方法についての情報収集や提供、相談対応等に取り組みます。

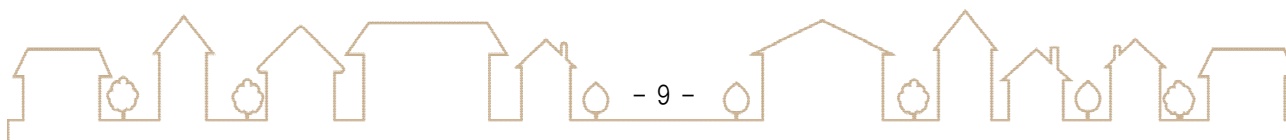
※「ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動」について、20 ページに参考事例を紹介しています

成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
多様な主体が連携して、地域課題の解決に向けた取組が行われていると思う市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	17.7%	30.0%

成果指標の考え方

①②③の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、多様な主体の連携・協力が促され、地域課題の解決に向けた取組が行われていると感じる市民の割合が高まっていくと考えます。



情報発信による信頼関係づくり

条文

第2節 特性を生かしたまちづくり

(情報の発信及び共有)

第9条 市民、まちづくり活動団体及び市は、互いの活動を理解し、協働によるまちづくりを推進するため、自らが行う活動に関する情報を発信し、共有するよう努めるものとします。

2 まちづくりに関する情報は、情報を受ける者に配慮し、適切な時期及び方法により発信し、共有されるものとします。

現状分析

市は、発信する情報の内容や情報を伝えたい相手に適した媒体（広報紙等の紙媒体やホームページやSNS等のデジタル媒体）を選択し、効果的な情報発信に取り組んでいます。

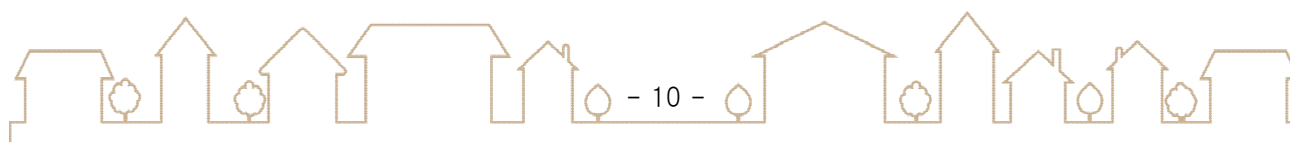
しかし、市が発信する情報の中には、市民の安全や暮らしなどへの影響が非常に大きいものもあり、発信する時期や方法については、より一層の考慮や配慮が必要とされています。

また、市民主体のまちづくり活動においては、さまざまな情報発信媒体が増えてくる中で、自分たちの活動を知ってもらったり、一緒に活動できる人や連携・協力できる団体等を探したりするための場や、デジタル媒体を効果的に活用し情報発信できる人材やスキルが不足していることを、課題に感じている団体も多い状況です。

取組方針

① 受け手の立場に立った情報発信・共有の推進

- ・市が行う情報発信については、市民の安全・安心な暮らしを守り、市民と市が信頼関係を深め、ともに手を取り合いながら協働によるまちづくりを推進していけるよう、引き続き、受け手の立場に立った適切な時期や方法（紙媒体やデジタル媒体、記載内容、レイアウト等）での発信に取り組めます。
- ・より多くの人たちが、自らが暮らし、関わる地域のまちづくり活動を知り、理解を深め、興味をもって活動に参加したり、既に活動している人たちが地域を超えてつながり、連携・協力した新たな取組が生まれるよう、進展するデジタル技術の活用について学べる機会の提供や活用の場の運営支援等に取り組めます。



成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
市公式ホームページの年間ページビュー数	472万回	500万回

成果指標の考え方

①の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、庁内全体の情報発信の質の向上につながり、市公式ホームページのページビュー数も増加していくと考えます。

※市の情報発信媒体の中で、最も幅広い情報を掲載している市公式ホームページのページビュー数を成果指標として設定しています。

成果指標	現況値 (令和6年度)	目標値 (令和12年度)
市公式LINEのお友だち登録数	25,961人	43,000人

成果指標の考え方

①の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、庁内全体の情報発信の質の向上につながり、市公式LINEのお友だち登録数も増加していくと考えます。

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
市民と、情報共有を図りながら仕事を進めることができた職員の割合 ※協働によるまちづくり職員アンケート	64.6%	81.0%

成果指標の考え方

①の取組方針に沿った事業や取組を進めることで、適切な時期や方法で、市民に情報を発信・共有しながら仕事を進めることができる職員の割合が高まっていくと考えます。



人づくり

条文

第3節 人づくり

(まちづくりに関わる人材の育成)

第10条 市民は、市民相互に行う生涯学習又は社会教育を通して、まちづくりに関わる人材を育成するよう努めるものとします。

2 市は、市民による人材の育成に対し、必要な支援を行います。

(子ども、若者等の育成)

第11条 市民による人材の育成及び市による支援は、次代のまちづくりを担う子ども、若者等の世代に対しても行われるよう配慮するものとします。

2 子どもを対象とした人材の育成は、家庭、学校及び地域住民その他の関係者が連携を図ることにより、行われるものとします。

(まちづくりリーダーの育成)

第12条 市民は、まちづくりを通して、その推進役を担う人材を育成するよう努めるものとします。

(人材を見いだす活動)

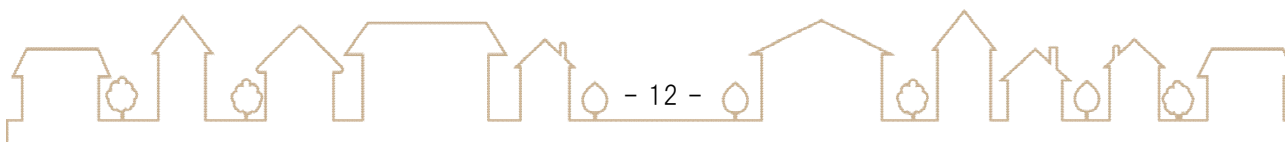
第13条 市民は、まちづくりに関わる人材を見いだすよう努めるものとします。

現状分析

市民および市は、まちづくりに関わる人材の発掘や育成に取り組んできましたが、人と人とのつながりが希薄化している中、多くのまちづくり活動において、人材不足や世代交代が進まないことが、今後の活動を継続していく上での大きな課題になっています。

市民からは、「もっと、まちづくり活動などについて学べる機会が欲しい」、「未来のまちづくりを担う人材を育てるためには、子どもたちの地域への愛着を育てることが大切」、「誰もが気軽に参加できるまちづくり活動が必要」などの声が挙がっており、幅広い世代の人たちが、新たにまちづくりに興味や関心を持ったり、活動をはじめたりできる場や機会が求められています。

また、既存の活動については、「これまでのやり方が変えられない」、「強制感や負担感がある」、「若い人の自主性を尊重し、応援する姿勢が必要」、「自分たちの活動の魅力をしっかりと伝えていくべき」など、新たな人材の発掘や育成に向けた、既存の運営体制や取組方法の見直しの必要性について、さまざまな声が挙がっています。



①市民相互の学び合いへの支援

市民相互の学び合いが、まちづくりへの興味や関心を持つきっかけになったり、そこで得た知識や技能、人と人とのつながり、育まれた人の輪が、その後のまちづくりに生かされるよう、学びの機会と場の提供や活動に関する情報発信、人と人や学びと活動をつなぐコーディネート機能の充実など、必要な支援に取り組みます。

②子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成

学校や地域住民、市の関係課等、多様な主体が連携・協力し、地域全体で子どもや若者の学びや成長を支え、主体的にまちづくりに参画できる環境を整えるなど、地域への愛着と誇りを育み、よりよい未来について考え、まちづくりを担っていける人材の育成に取り組みます。

※「子ども」は小学生までを「若者」は中学生から30歳未満までをとらえています。

③誰もがまちづくりに参加・参画しやすい環境づくり

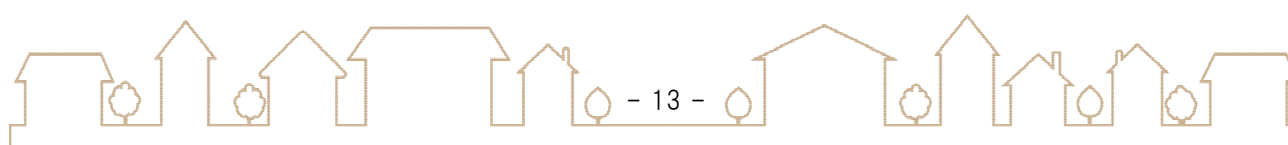
より多くの市民や団体、事業者等が、ゆるやかにつながり、互いの活動の目的を共有し、それぞれの得意なことを生かしながらまちづくりに関わられるよう、担い手不足や住民同士のつながりの希薄化等に悩む既存のまちづくり活動団体の、運営体制や取組方法の見直しに向けた伴走支援を行うなど、誰もがまちづくりに参加・参画しやすい環境づくりに取り組みます。

成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
学んだことを地域や社会に生かした市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	8.1%	11.0%

成果指標の考え方

①の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、市民相互の学び合いが促され、学んだことを地域や社会に生かしていける市民の割合が高まっていくと考えます。



成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査(文部科学省)	(小学校) 84.9% (中学校) 77.7%	(小学校) 87.5% (中学校) 80.5%

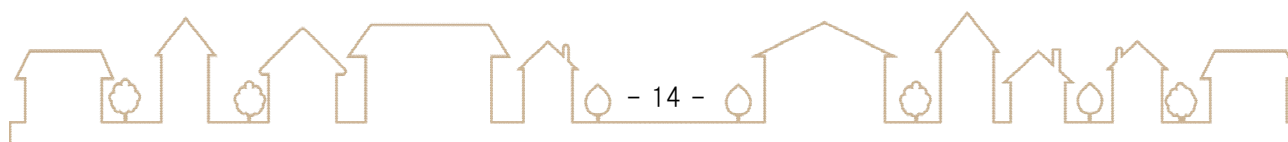
成果指標の考え方

②の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、児童生徒の地域への理解や愛着が深まり、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合が高まっていくと考えます。

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
地域主体の活動に参加している市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	24.7%	28.5%

成果指標の考え方

①②③の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、まちづくりに関わる人材の育成が促され、地域主体の活動に参加している市民の割合が高まっていくと考えます。



条文

(市の職員の育成)

第14条 市は、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員を育成します。

現状分析

市は、各種研修や日々の業務を通じて、市民との協働の大切さを学び実感することで、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組んでいます。

一方で、市民からは、「市の職員が、もっと地域のこと（人、現状、歴史、伝統、文化等）を知ること、効果的にまちづくりが進められる」、「市の職員同士が連携を強め、地域の情報を共有することで、市民との協働も進んでいく」など、市の職員の、より一層の地域への理解や地域の人たちとの信頼関係の深まりを期待する声が挙げられています。

市は、こうした声をしっかりと受け止め、引き続き、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組む必要があります。

取組方針

④協働によるまちづくりの担い手・支え手としてふさわしい職員の育成

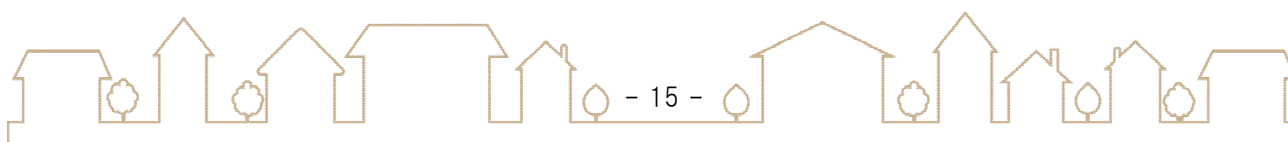
引き続き、各種研修を通じて、職員の協働の理念の啓発やまちづくりの担い手・支え手として必要な能力やスキルの習得を図るとともに、職員一人ひとりが、これまで以上に市民とのつながりや信頼関係を深めることで、市民のニーズを的確に捉えたまちづくりを進められるよう、より現場での実践を大切にした職員の育成に取り組みます。

成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
行政が、地域のことを真剣に考えている と思う市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	29.1%	35.0%

成果指標の考え方

④の取組方針に沿った事業や取組を実践することで、協働によるまちづくりにふさわしい職員の育成が促され、行政が地域のことを真剣に考えていると思う市民の割合が高まっていくと考えます。



評価及び支援

条文

第4節 評価及び支援

(活動の評価)

第15条 市民及びまちづくり活動団体は、その行う活動を顧みることにより、次の活動に生かすよう努めるものとします。

(市による評価及び支援)

第16条 市は、市民の行うまちづくりについて、その活動を評価し、必要な支援を行います。

2 市長は、まちづくりに対する評価の基準を決めようとするときは、あらかじめ、第17条に定める協働によるまちづくり審議会の意見を聴きます。

現状分析

市は、市民が取り組む活動が、公共の利益を生むまちづくり活動である場合、補助金の交付や地域貢献活動保険の整備、各種表彰制度による表彰、市の広報媒体を使った情報発信など、さまざまな方法で活動の支援を行っています。

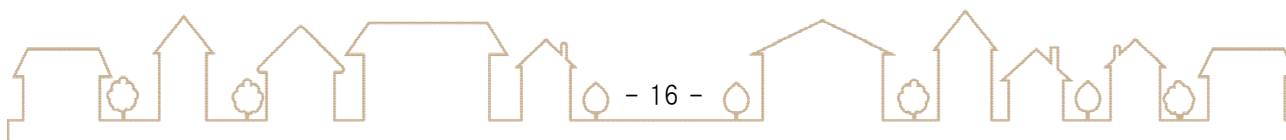
しかし、少子・高齢化や定年延長等、さまざまな社会情勢の変化に伴い、まちづくり活動を続けていく上での課題やニーズは多様化・複雑化していることから、従来通りの支援だけではなく、より現状の課題やニーズに応じた適切な支援が求められています。

取組方針

①適切な評価及び支援

市民が取り組むまちづくり活動がよりよい活動になるよう、市は、適切に活動を評価し、必要な支援方法を検討します。

また、市民が取り組むまちづくり活動の自主性や自立性が失われないよう、活動の後押し等につながる適切かつ相応の支援を行います。



成果指標と目標値

成果指標	現況値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 1 2 年度)
ボランティア活動の支援など、市民が活動しやすい環境づくりに満足している市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	6.0%	8.0%

成果指標の考え方

①の取組方針に沿った事業や取組（支援自体を目的とした事業や取組だけでなく、市民が主体的に取り組むまちづくり活動に、市も一緒に取り組むことで、活動が進めやすくなる事業や取組など）を実践することで、市民が活動しやすい環境づくりに満足している市民の割合が高まっていくと考えます。

※「一緒に取り組むまちづくり活動」について、21 ページに参考事例を紹介しています





参考事例編



事例1 円卓会議

事例2 ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動

事例3 一緒に取り組むまちづくり活動

参考事例編では、計画の策定に向けた各種会議等において、「計画を実践していくために、職員が理解を深める必要がある」等の意見をいただいた3つの内容について、実際の事例を通じて理解を深めることができるよう、本市における好事例を掲載しています。



「多様な主体がつながり、商店街の活性化に向けて話し合う場」 『津田商店街を創る会 円卓会議』



この円卓会議は、平成30年に開催された「ふるさと佐伯を次世代につなぐ1パーセント戦略」の講演会をきっかけに、「津田商店街を昔のような活気のある商店街にしたい」という有志が集まり、商店街の活性化を話し合う場として開催されるようになりました。

令和元年からは『津田商店街を創る会 円卓会議』として月1回開催され、令和7年10月には、記念すべき70回目を迎える、地域に根付いた「円卓会議」になっています。現在、この会議には、商店街の事業者はもちろん、商工会や地域の学校、保育園、市の職員など、さまざまな人たちが参加し、それぞれの活動や地域の情報を共有したり、商店街を盛り上げるイベントなどについて話し合う中で、参加者同士のつながりや、新たな取組が生まれています。津田商店街はもちろん、地域全体を盛り上げる『協働によるまちづくり』の苗床のような場所になっている、「円卓会議」の好事例です。



どんな取組が生まれたの？

- 商店街を盛り上げるイベント(マルシェ・空き店舗巡りツアー等)を開催しました
- 商店街に新たな仲間 (アップサイクルストア・グローブ屋・パン屋・カフェ・雑貨屋・お好み焼き屋等)が増えました
- 小学校とコラボして、学校や地域の魅力をPRしました(小学校オープンスクール等)

円卓会議が長く続いている理由は？

- 互いの意見を否定せず、誰もが安心して参加し(出入り自由)、意見がいえやす
- 参加者が円になって座り、同じ立場で話し合い、協力しながら取組を進めています
- 会議に参加する若い人たちが新しく地域にきた人たちを応援する雰囲気があります

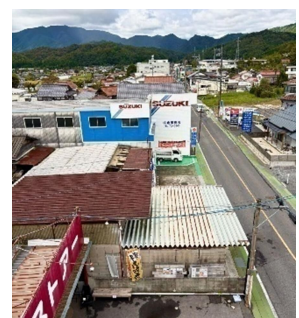
市の職員はどんな役割を担っているの？

「立ち上げ当初」

軌道に乗るまでの間、人材育成塾を実施して人材発掘や育成、組織基盤づくりを支援したり、会議の司会、議事録の作成などの役割を担いました

「現在」

開催に向けた地域への声かけや会場の調整、会議資料の準備、現場に来られない人への Zoom 配信、議事の共有(ホワイトボードに板書して撮影し画像を共有)、などの役割を担っています。



▲津田商店街(上空写真)



▲開催したマルシェの様子



「地域課題の解決に取り組む助け愛グループ」 『だんだんプラス』



『だんだんプラス』は大野地域を中心に、地域住民の困りごとを解決するために、有償でボランティア活動を行っている団体です。もともとは、地域のお茶の間サロン「だんだん」の活動をしている際、参加者からの「困った」という声をきっかけに立ち上がり、暮らしの中のちょっとした困りごとを、「地域住民がお互いに助け合おう」という精神のもとに活動しています。活動内容は主に口コミで地域に広がっており、依頼者のほとんどは高齢者です。依頼者が気を遣わずに相談ができるよう、敢えて30分300円（機材費等は別）という低額な基本料金を設定し、草取りや掃除、買い物支援や話し相手など、地域の人たちの要望に応じて、さまざまなサービスを提供しています。立ち上げ当初は4人だったメンバーは徐々に増え、今では50代から70代までの10人程度の人たちが和気あいあいと活動しています。地域課題の解決に、ビジネスの手法を効果的に取り入れているまちづくり活動の好事例です。



最も依頼の多い草刈りの様子。多い時にはゴミ袋50袋分になることも！

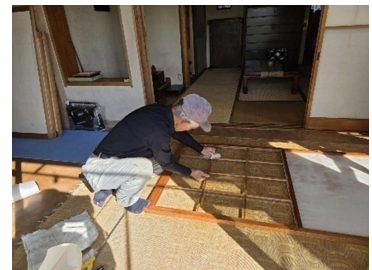
有償ボランティア『だんだんプラス』の魅力とは？

- 依頼者は低額でもお金を払っているので、気を遣わず相談ができます
- 依頼の際に事務的な手続きが少ないため、急な依頼にも素早く対応してもらえます
- 活動者の顔が見えるので、依頼者が安心して依頼することができます



どうして活動を続けられるの？

- 活動者同士が協力し合い、楽しく活動しています。楽しんで活動することが一番！
- 地域には自分たちが必要だという使命感とプライドがあります
- 地域の人たちが喜んでくれて、受け入れられています。しかも自分たちの健康維持にもつながっています



市はどのように関わっているの？

- 日常生活の中で、市の制度だけでは対応が難しい相談に対し、『だんだんプラス』の紹介をしています
- 活動の支援につながるよう、運営に必要な物品の購入や通信費に当てることができる補助金を交付しています





「人と人とのつながりを育むまちづくり活動」 『何にもしない合宿（宮内地区）』



『何にもしない合宿』は、夕飯や入浴を済ませた子どもたちが、学校の体育館や市民センターなどに集まり、消灯時間まで自由に遊び、寝て、朝になったら解散するという合宿です。大人は、子どもたちの様子を見守るだけで、特別なことは「何にもしない」のが特徴です。運営する大人の負担を極力減らし、定期的に合宿を開催することで、人と人が出会うきっかけが生まれ、地域に「顔見知り」や「知り合い」、「挨拶」が増えていく、そんな「心地よく暮らし合えるまち」、「地域の社会教育」の土壌をつくることを目的とした合宿です。もともと静岡県裾野市ではじまった合宿ですが、宮内地区では、地域の人たちの「地元でもやりたい」という思いのもと、地域と学校が「活動の目的」を共有し、宮内小学校区地域学校協働本部（地域と学校が一体となってこどもの学びや成長を支える組織）が主催となり、小学校の協力（小学校でのチラシ配付や施設の使用、開催に向けた助言等）を受けながら、地域が主体的に運営する合宿として、令和6年6月にスタートしました。現在でも、月1回合宿を開催しており、合宿を通じて知り合った人たちの間に自然な挨拶が生まれ、子どもたちの新たな居場所づくりにもつながるなど、地域により変化が生まれてきています。地域と学校が手を取り合い、効果的に進められている、まちづくり活動の好事例です。



令和6年6月にスタートしました。現在でも、月1回合宿を開催しており、合宿を通じて知り合った人たちの間に自然な挨拶が生まれ、子どもたちの新たな居場所づくりにもつながるなど、地域により変化が生まれてきています。地域と学校が手を取り合い、効果的に進められている、まちづくり活動の好事例です。

学校と一緒に取り組むことで、活動を進めやすくなっている点とは？

- 児童や保護者へ合宿の情報を提供しやすく、安心感も増すため、参加者が集まりやすいです
- 学校支援ボランティア等、地域の多様な活動者が、運営スタッフとして関わることができます
- 合宿に最適な学校施設（体育館や多目的教室など）を使用することができます

『何にもしない合宿(宮内地区)』から学ぶ、まちづくり活動の推進に大切なこと

「つながり・信頼関係」

この合宿は、日頃からつながりのある地域の人たちやコミュニティ、団体、小学校等が、「活動の目的」を理解し合い、連携・協力することで実現しています。市民同士、市民と市が、思いを共有したり、一緒にまちづくりを進めていくためには、継続的な「つながり」や、そこから生まれる「信頼関係」の土台があることが、大切な要素になります。

「地域資源を生かす」

この合宿は、地域の人たちが主体的に運営を行い、学校は、活動を進めやすくする環境を整えるなど、それぞれが役割を分担しながら、一体的に進められています。このように、市民と市と一緒に取り組み、市民の力、市民と市が有するネットワーク、公共施設等、さまざまな「地域資源」を共有することは、「まちづくり活動」を推し進めるための、大切な要素になります。





資料編



- 1 計画ができるまで
- 2 計画の策定までに行われた会議等
- 3 未来への提案 ~計画策定の過程でいただいた大切な意見~
- 4 まちづくり活動団体等アンケート調査結果
- 5 指標と目標値の考え方

資料編では、第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画の策定のプロセスや関連資料等を掲載しています。



計画ができるまで

実施日	主な内容等
令和6年 11月13日～ 12月6日	○まちづくり活動団体等アンケート 〔回答〕152団体 ・廿日市市民活動ネットワーク登録団体 ・市内に主たる事業所の住所を置くNPO法人等
令和7年 3月17日	○協働によるまちづくり審議会 〔議題〕協働によるまちづくりの実施状況について
4月27日	○第1回協働によるまちづくり推進計画策定委員会 〔議題〕協働によるまちづくりの現状について
	○第2回協働によるまちづくり推進計画策定委員会 〔議題〕協働によるまちづくりを推進するために特に強化すべき取組について
6月23日	○協働によるまちづくり推進計画職員ワーキング 〔議題〕第4期推進計画における取組方針や成果指標等について
7月31日	○第3回協働によるまちづくり推進計画策定委員会 〔議題〕第4期推進計画素案（仮）について
8月22日	○協働によるまちづくり審議会 〔議題〕 ・協働によるまちづくりの総合的評価について ・第4期推進計画素案について
11月28日	○協働によるまちづくり審議会 〔議題〕第4期推進計画（案）について
12月11日	○廿日市市議会説明 第4期推進計画（案）について
令和7～令和8年 12月22日～ 1月20日	○パブリックコメント
令和8年 3月11日	○協働によるまちづくり審議会 〔議題〕第4期推進計画（案）について



(1) 協働によるまちづくり審議会

協働によるまちづくりを確実に推進していくため、条例に基づき、協働によるまちづくり審議会を設置しています。

審議会では、本市における協働によるまちづくりの推進状況や第4期の計画の内容等について審議しました。

【協働によるまちづくり審議会 委員名簿】

No.	氏名	所属等	備考
1	石川 夏香	公募	
2	金子 史子	公募	
3	佐々木 こひな	公募	
4	早川 幸江	公募	
5	村上 恭子	公募	
6	吉田 麗	公募	
7	林田 隆幸	まちづくり活動団体推薦（廿日市市町内会連合会）	
8	二宮 理	まちづくり活動団体推薦（浅原の未来を創る会）	
9	山崎 幸	まちづくり活動団体推薦（コミュニティよしわ）	
10	森川 克己	まちづくり活動団体推薦（大野区長連合会）	
11	蒲田 智美	まちづくり活動団体推薦（宮島地域コミュニティ推進協議会）	
12	児玉 貴広	廿日市商工会議所	
13	太泰 淑史	廿日市市国際交流協会	副会長
14	手島 洋	県立広島大学保健福祉学部	
15	山川 肖美	広島修道大学人文学部	会長

【答申】



(2) 協働によるまちづくり推進計画 策定委員会・職員ワーキング

第1回 協働によるまちづくり推進計画策定委員会

第4期の計画の策定にあたり、市民の意見等を反映させるために策定委員会を設置しました。

第1回策定委員会では「協働によるまちづくりの現状の共有」として、グループに分かれて「協働」で取り組んでいる活動事例や「協働」の手法を取り入れて活動したことで生まれた効果等について情報交換をしました。その後、「協働」をさらに一歩進めるために必要だと感じることや今後の課題などについて意見を出し合いました。



第2回 協働によるまちづくり推進計画策定委員会

第2回策定委員会では、まちづくりの現状や課題などを踏まえながら、協働によるまちづくりを推進するために、市や市民等が取り組んだらいいこと、それぞれが取り組みを実践することで生まれる変化などについて意見を出し合いました。



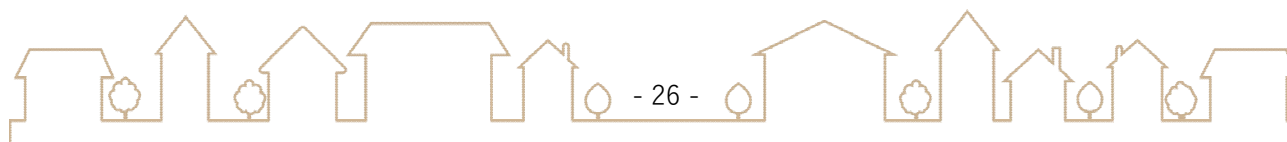
協働によるまちづくり推進計画職員ワーキング

市職員によるワーキングでは、複数の部署の職員が集まり、協働によるまちづくりを推進するために、第4期の計画における市としての取組や成果指標等について、これまでに実施したまちづくり活動団体アンケート調査結果や策定委員会での意見なども踏まえながら、意見を出し合いました。



第3回 協働によるまちづくり推進計画策定委員会

第3回策定委員会では、各種調査結果やこれまでに開催された策定委員会や職員ワーキングで出た意見等を踏まえて作成された計画素案（仮）について、「取組方針」や「成果指標」など記載されている内容を確認し、計画をさらにブラッシュアップするために意見を出し合いました。



本計画を策定するにあたり、協力いただいた多くの方からさまざまな意見をいただきました。いただいた意見のすべてを計画の本編に入れることはできなかったものの、今後の協働によるまちづくりを推進していく上で参考となる大切な意見として掲載しています。

協働によるまちづくりを推進する仕組み(1)

特性を生かしたまちづくり

まちづくりの拠点の体制及び環境整備

(ソフト及びハード)

- ・施設のバリアフリー化の推進
- ・まちづくり拠点の相互連携、情報共有の強化
- ・子どもが集える場所にする
- ・市職員が他の所属の仕事を知る
- ・市民センターや市民活動センターに市民が気軽に立ち寄れる環境を整える
- ・市民センター、市民活動センターのあり方を点検し、機能や役割を果たす
- ・市民センター、市民活動センター、支所、担当課との連携を強化する

円卓会議の推進

- ・円卓会議について知らない人のために、意義・意図を庁内外に周知する
- ・地域の会議を支えられるよう職員がファシリテーションスキルを身につける
- ・参加者の役割をはっきりさせる
- ・円卓会議で出た課題への対応やフィードバックが重要
- ・円卓会議の考え方や効果的な運営方法等のノウハウを習得する研修を行う
- ・さまざまな人が気軽に集える、若い人も参加しやすくするなど、円卓会議の敷居を下げる

ビジネスの手法を取り入れた

まちづくり活動の推進

- ・コミュニティビジネスや有償ボランティアなど取組事例を共有・周知する
- ・地域と学校が連携し、キャリア教育を実施する
- ・コミュニティビジネスという言葉をもっと浸透させるための発信を行う
- ・地域課題の洗い出しと優先順位の設定
- ・市内の実践例を発掘し、モデルケースとしての支援や事例としての紹介を行う
- ・資金調達、法人化など持続可能な運営の手法を学ぶ機会を設ける
- ・高齢者の「買い物・通院」や「閉じこもり」などの解消につながる近距離モビリティサービス等の有償ボランティアに期待



受け手の立場に立った情報発信・共有の推進

- ・情報を伝えたいターゲットを明確にして情報発信する
- ・受け手がほしい情報を把握するための仕組みづくり
- ・情報発信手段の選択が必要
- ・色々な媒体を効果的に使う
- ・情報発信のスキル習得や専門家に相談できる機会の充実
- ・市、まちづくり活動団体、市民、事業者、学校等が情報交換できる場づくり
- ・市民センター等で行われている活動内容が一目でわかるようなシステムの構築
- ・SNSでの発信力がある組織が小規模団体の活動情報を発信する
- ・本計画の取組や成果をしっかりと市民に伝え、市民のまちづくりへの参加を促す

市民相互の学び合いへの支援

- ・市民と職員が共に学び合い、互いを高められる環境が必要
- ・出張公民館の実施
- ・やりたい人とやってもらいたい人をマッチングする掲示板などを作る

誰もがまちづくりに参加・参画しやすい環境づくり

- ・「組織と組織」の支援だけでなく、「個人と個人」のつながりづくりも支援する
- ・人権尊重、障がいへの理解
- ・市民活動の核となる人材の育成
- ・既存団体の取組や意識を変えていく
- ・地区の情報が見える化する
- ・若い世代や働く人が関わりやすい工夫
- ・後継人材や担い手・支え手の発掘、まちづくり活動団体とのマッチング
- ・まちづくりに参加しやすくなるコーディネートや声かけ、マッチングなどの仕掛け
- ・子どもと高齢者が交流し「子育て」と「高齢期の健康」を統合的に支える「幼老統合ケア」の推進
- ・廿日市市をよくするために働きたい、廿日市市に住み続けたいと思ってもらえる環境づくりが大切

子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成

- ・学校のカリキュラムに廿日市市のことを学び、愛着を持てるような学科を設ける
- ・子どもや若者主体で地域づくりをする
- ・親子でできるイベントの開催
- ・市が地域と子どもをつなげる
- ・子どもや青少年育成の活動と文化・芸術・スポーツ、まちづくり等の分野が結びつきを深める
- ・若者同士の関係構築や学びの場、活動の場を積極的につくる

協働によるまちづくりの担い手・支え手としてふさわい職員の育成

- ・庁内での連携の強化（地域の課題解決を考える際には他部署の職員も集めるなど）
- ・職員が地域の人を知る（職員が現場に出られる体制づくり）
- ・職員も一市民として地域活動に参画意欲のある人を育てる
- ・本庁職員が支所勤務を経験する仕組みづくり



適切な評価及び支援

- ・活動をしている子どもや若者を評価する（学校での表彰など）
- ・活動の足りない部分を分析し、補うことができる手法や支援者を紹介する
- ・活動が公益性に寄与するか分析し、周知する
- ・地域の安全、防災など、市民の暮らしや命を守るまちづくり活動の支援
- ・協働によるまちづくりの基本原則の継続的な周知
- ・まちづくり活動への幅広い参加を促進する仕組みづくり
- ・多様な主体におけるまちづくり活動や、地域貢献活動、ボランティア活動等をつなぐ
- ・市民の主体性を引き出すため、市がすべて支援するのではなく市民の自律性に任せる部分を明確化する
- ・活動の立ち上げから自立まで段階に応じた支援を行う

策定委員会や審議会、職員ワーキングの様子や会議中に出た意見などについて、市公式ホームページで確認ができます。

市公式 HP【第4期協働によるまちづくり推進計画の策定に向けて】 ▶



本計画の策定にあたり、市内のまちづくり活動団体等を対象にアンケート調査を実施し、まちづくりに関わる団体（152 団体）の調査協力を得て、本市のまちづくり活動全体の実態や進捗状況、変化等について、調査結果から読み取れる内容を分析し、計画策定の基礎資料としました。

調査の概要

（1）調査目的

協働によるまちづくりの推進に向けた「第 4 期廿日市市協働によるまちづくり推進計画（令和 8 年度～令和 12 年度）」策定の基礎資料とするため

（2）調査対象

- ・廿日市市民活動センターネットワーク登録団体
- ・本市に主たる事務所の住所を置く NPO 法人等

（3）調査方法

各団体にアンケート用紙を送付（郵送調査）

（4）調査時期

令和 6 年 11 月 13 日～12 月 6 日

（5）調査項目

- ・団体の基本情報
- ・活動について
- ・コミュニティビジネスについて
- ・人づくりについて
- ・廿日市市の協働によるまちづくりについて

（6）配布・回収状況

配布数 199 件、回収数 152 件（回収率 76.4%）



調査結果

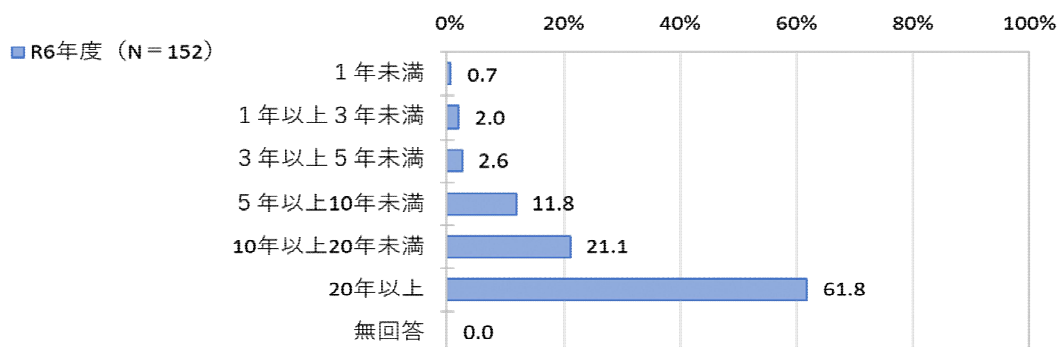
— 調査結果の表示方法 —

- ・特記しない限り回答数（N=152）に対する割合（％）を算出しています。
- ・選択肢ごとの割合（％）は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位までを表示しているため、全ての選択肢の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答設問においては、全ての選択肢の件数の合計が回答数と一致しないほか、全ての選択肢の割合の合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフでは、選択肢の語句の表現を省略している場合があります。
- ・前回調査（令和2年4月実施、N=152）との比較を行っています。

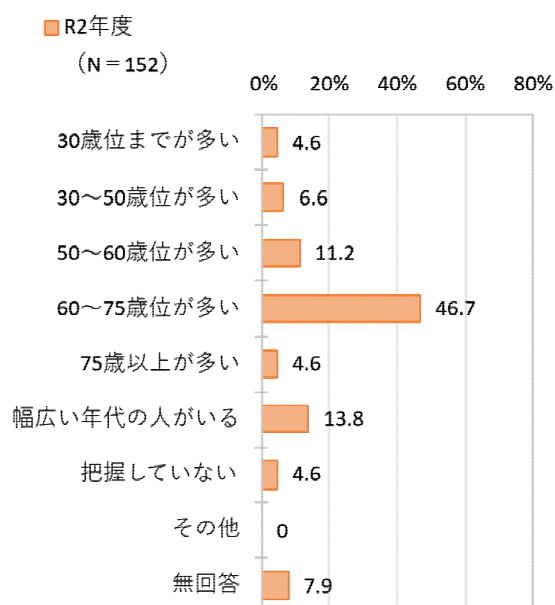
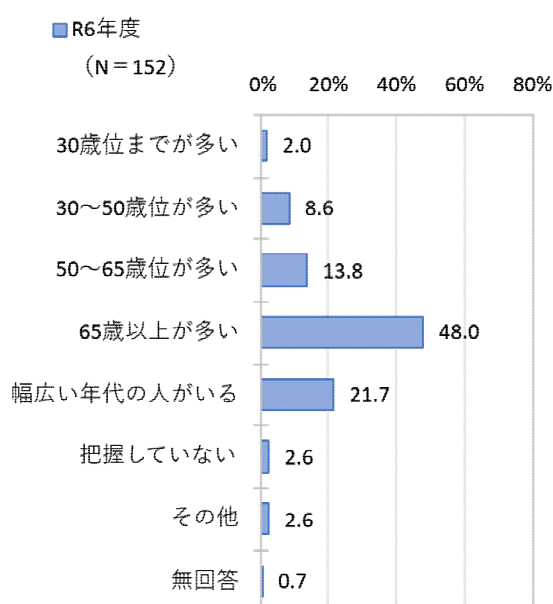
1. 団体の基本情報等

問1 団体名（省略）

問2 団体の活動年数



問3 会員の年齢構成



※前回調査との比較

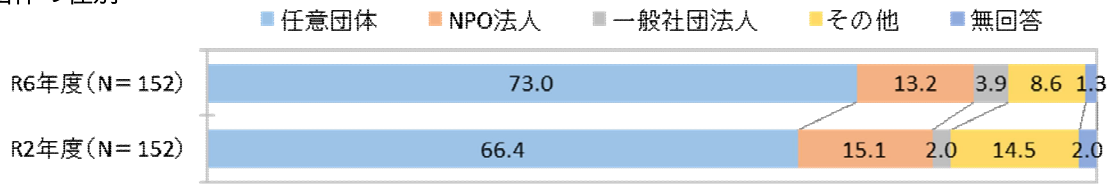
【変更点】 選択肢の変更

【理由】 定年延長等による年齢幅の調整

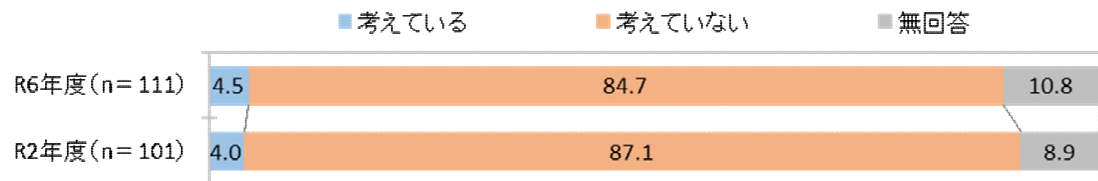


問4 団体の種別等

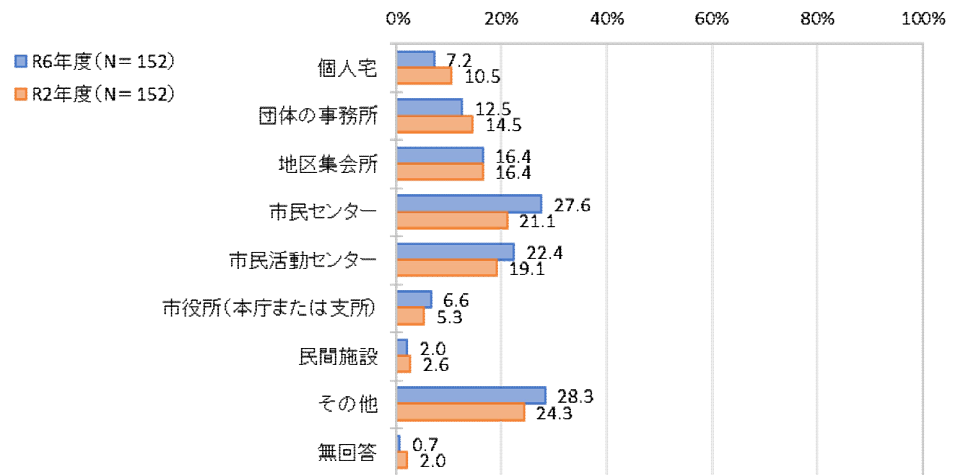
1) 団体の種別



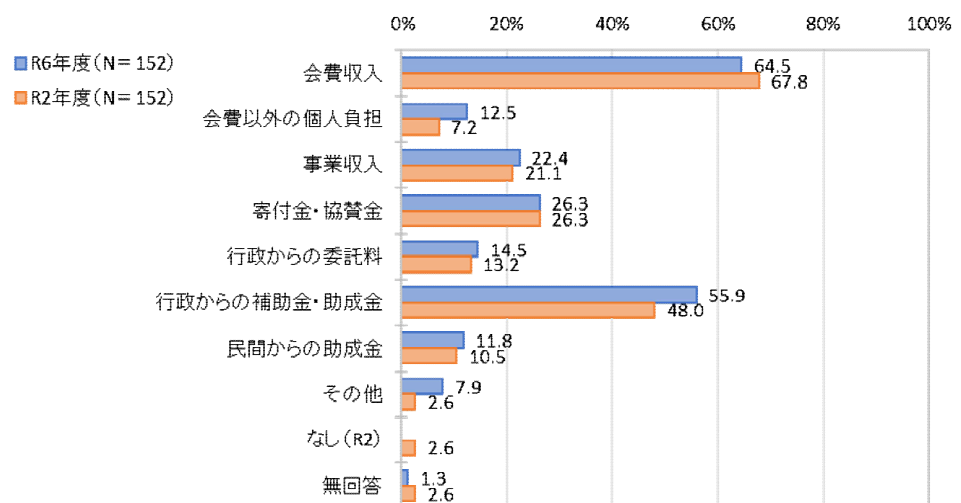
2) 今後の法人化の考え (任意団体のみ回答)



問5 主な活動場所 (複数回答可)

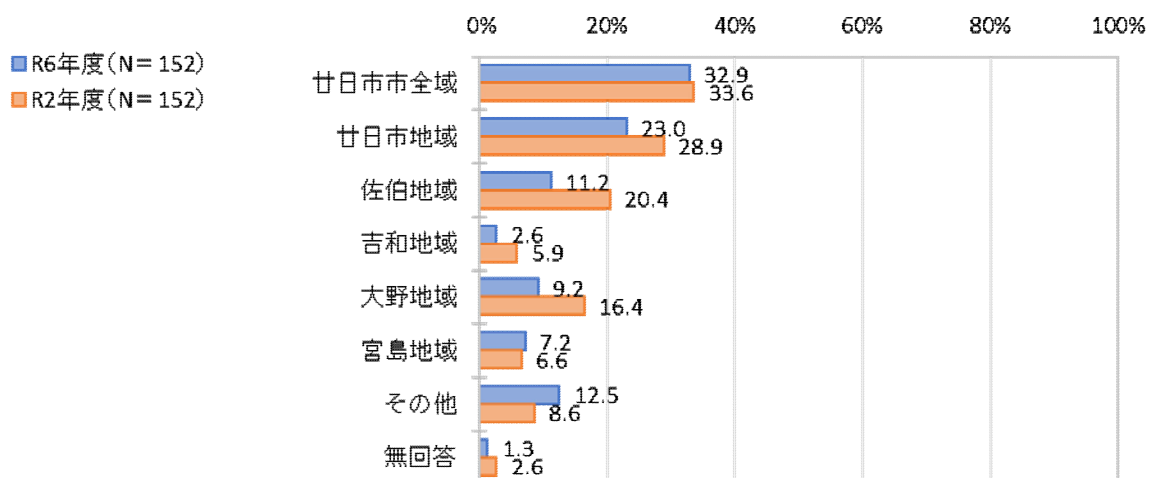


問6 団体の収入源 (複数回答可)



2. 活動について

問7 主な活動地域

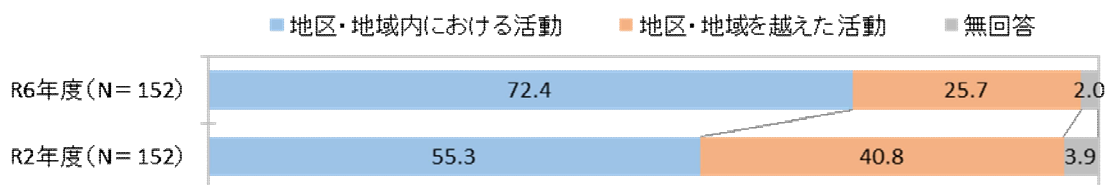


※前回調査との比較

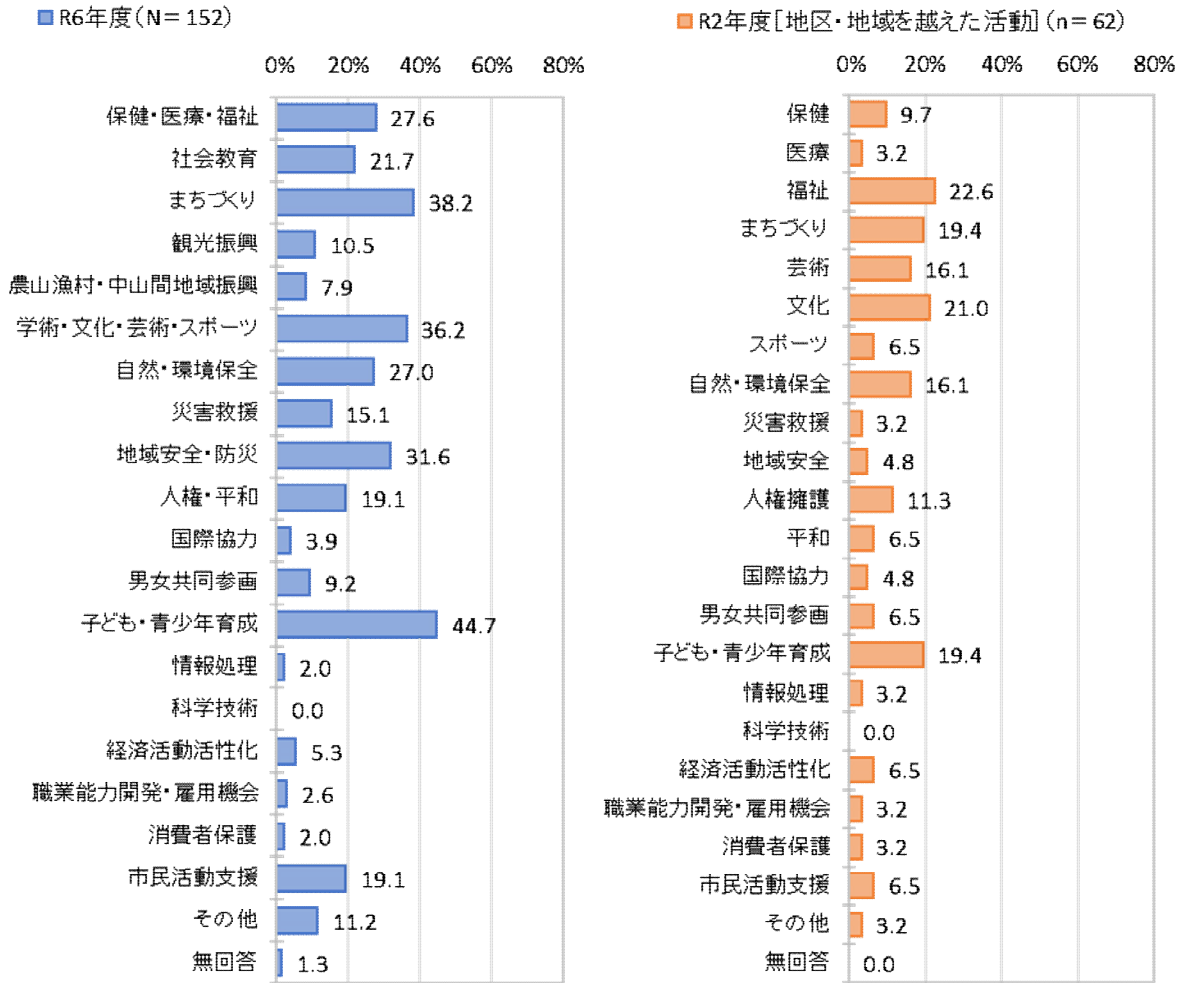
【変更点】複数回答から単数回答へ変更

【理由】「主な」活動地域を把握するため

問8 活動の範囲



問9 活動分野 (複数回答可)

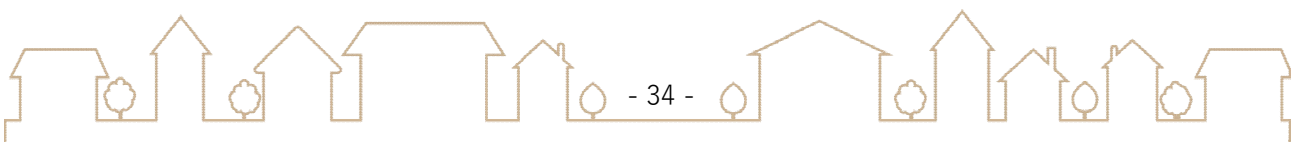
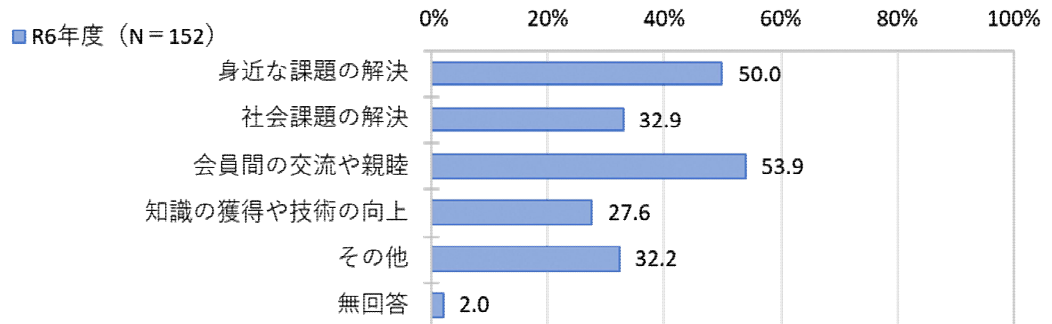


※前回調査との比較

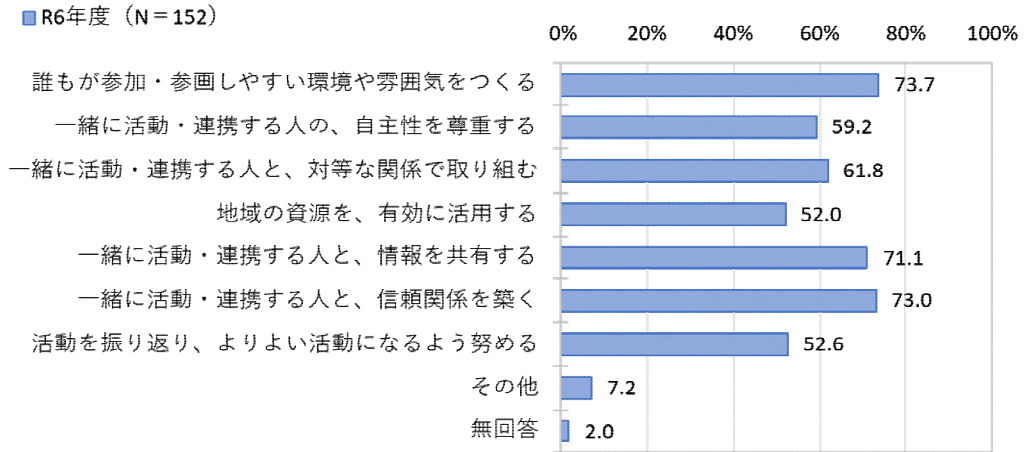
【変更点】一部団体回答から全団体回答へ変更

【理由】全団体の活動内容を把握するため

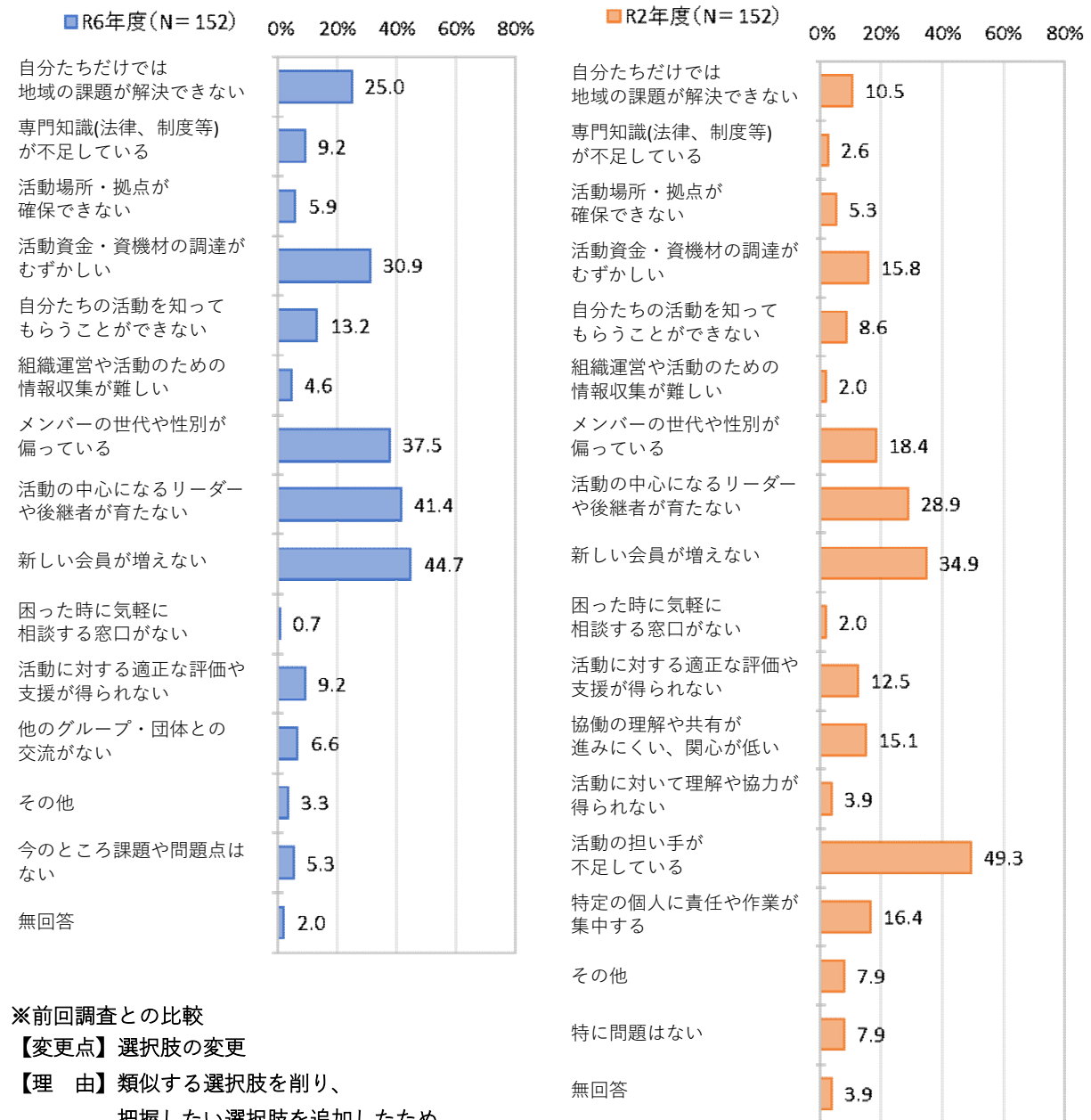
問10 活動目的 (複数回答可)



問 11 活動をする際の意識（協働によるまちづくりの基本原則）（複数回答可）



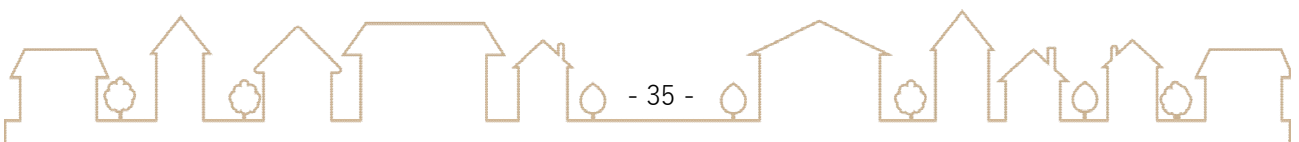
問 12 活動を行う上での課題（複数回答可）



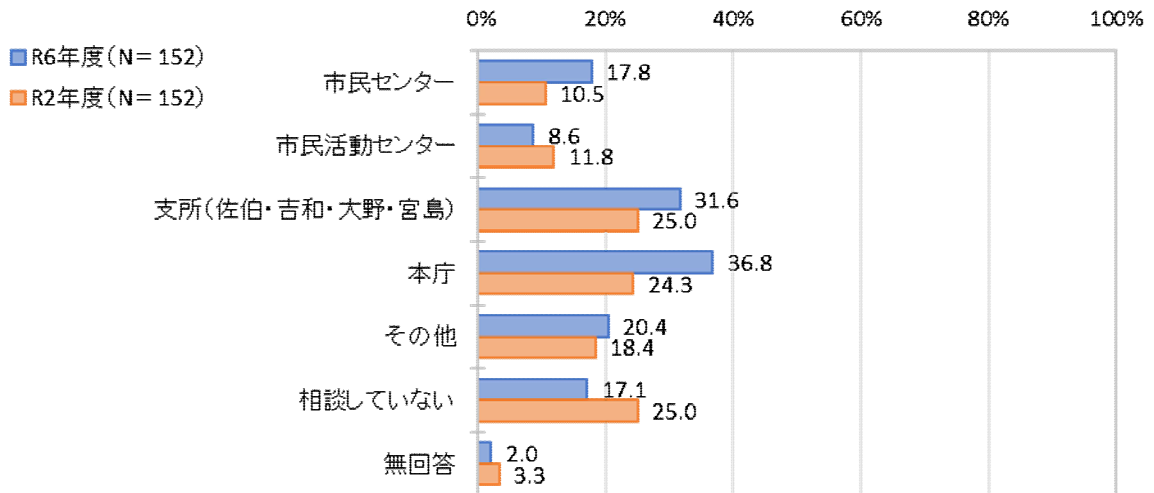
※前回調査との比較

【変更点】 選択肢の変更

【理 由】 類似する選択肢を削り、把握したい選択肢を追加したため

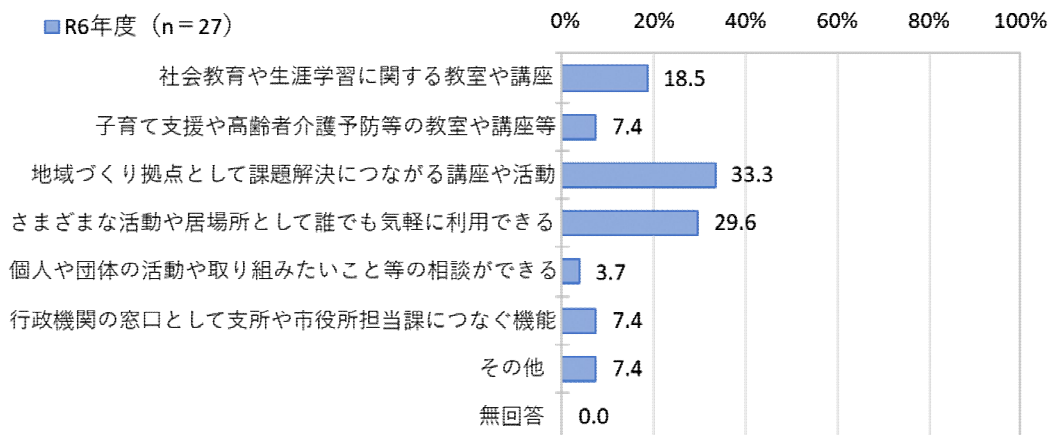


問 13 活動や運営に関する相談先 (複数回答可)

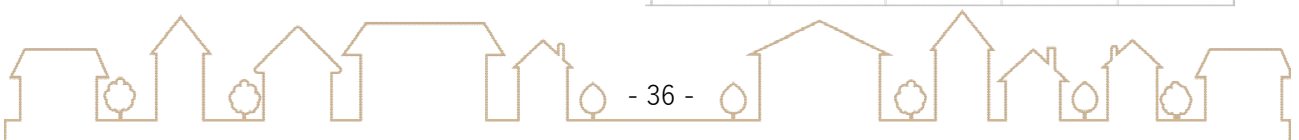
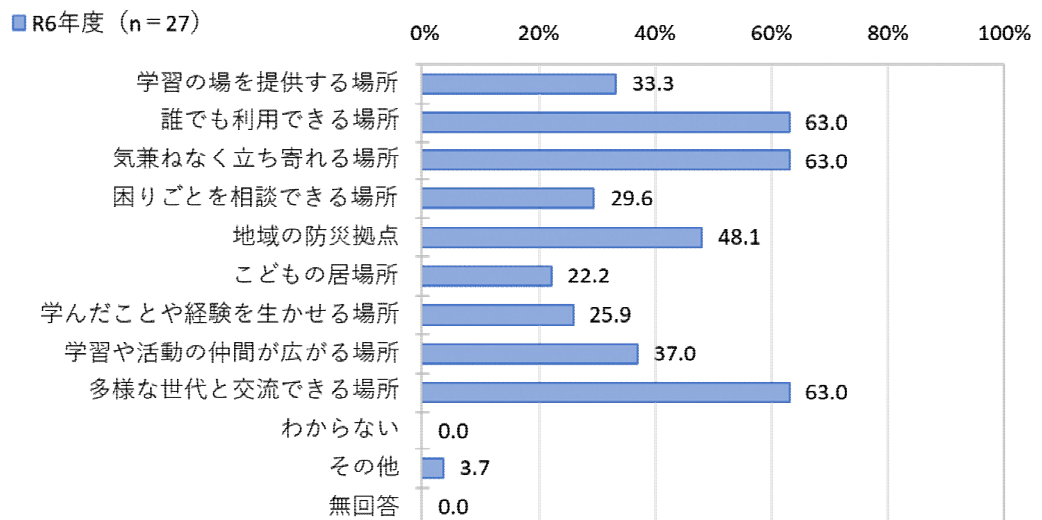


問 14 市民センターについて

1) これからの市民センターの機能・役割への期待 (複数回答可)

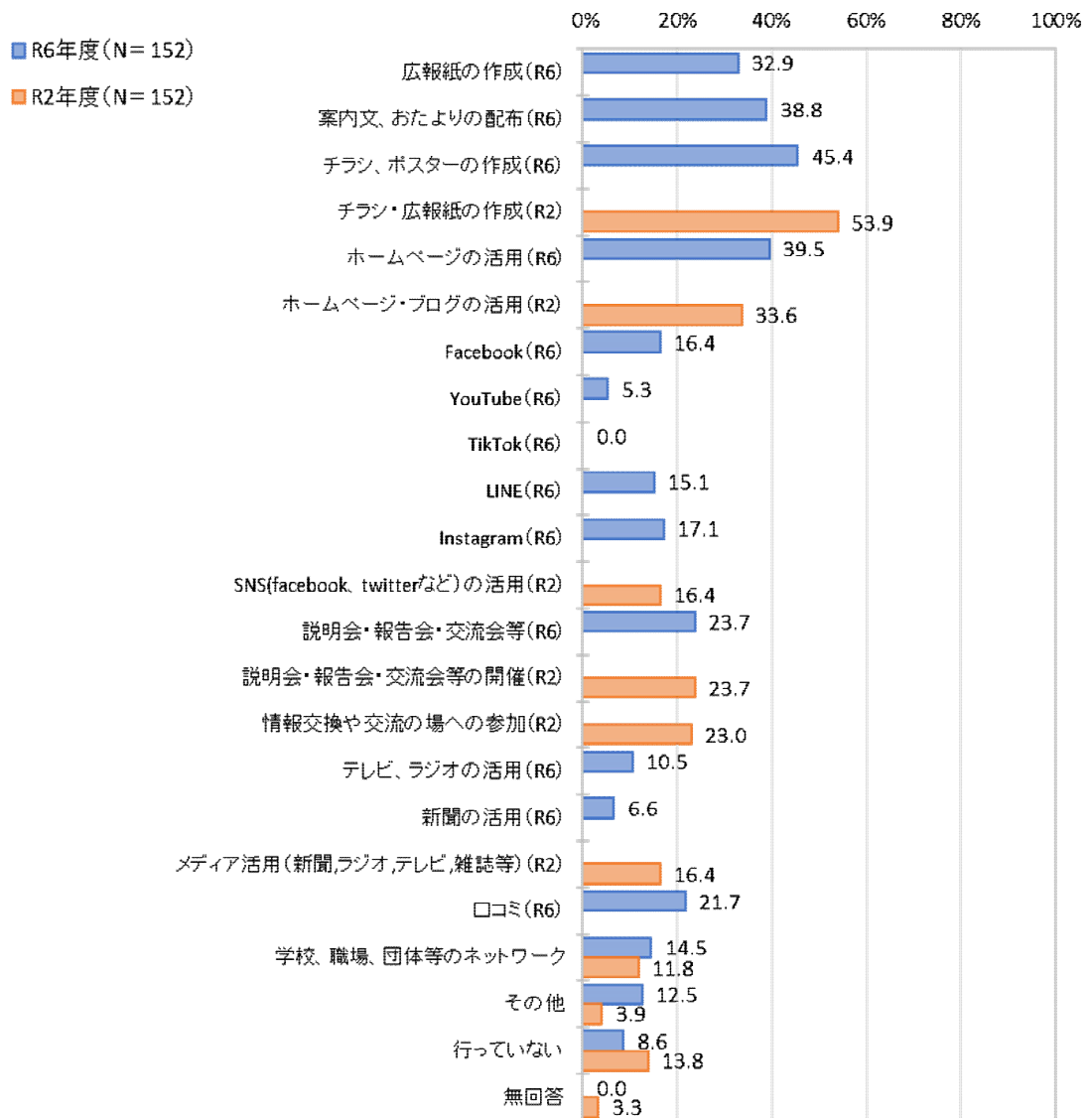


2) これからの市民センターの姿 (複数回答可)



問 15 情報発信について

1) 組織や活動の情報発信方法 (複数回答可)

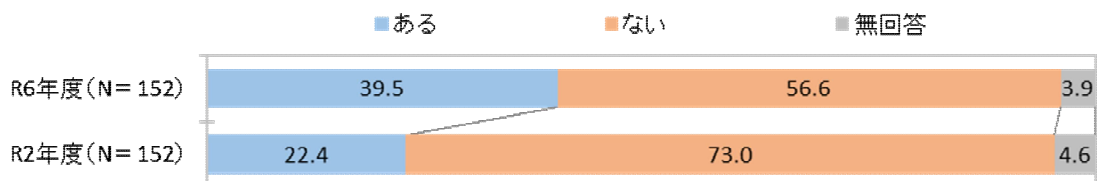


※前回調査との比較

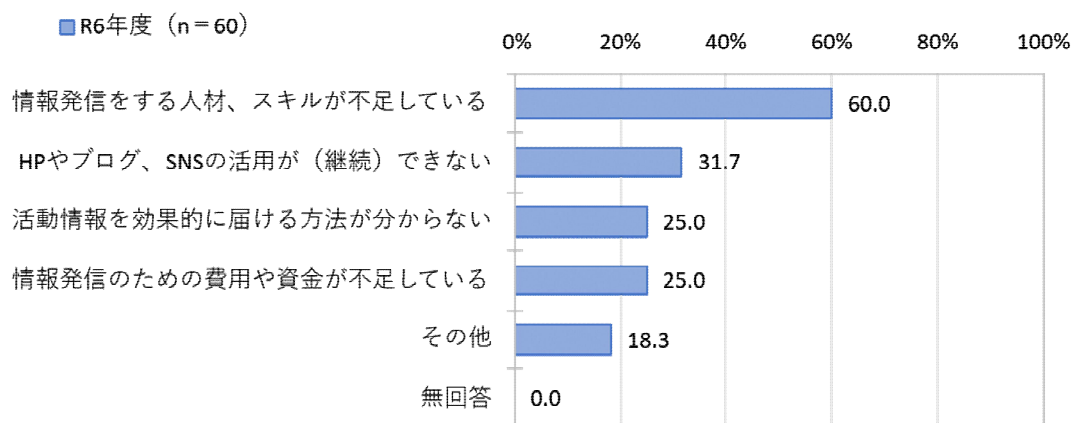
【変更点】 選択肢の変更

【理由】 SNS を細分化し、把握したい選択肢を追加したため

2) 現在、情報発信について困っていることや課題の有無



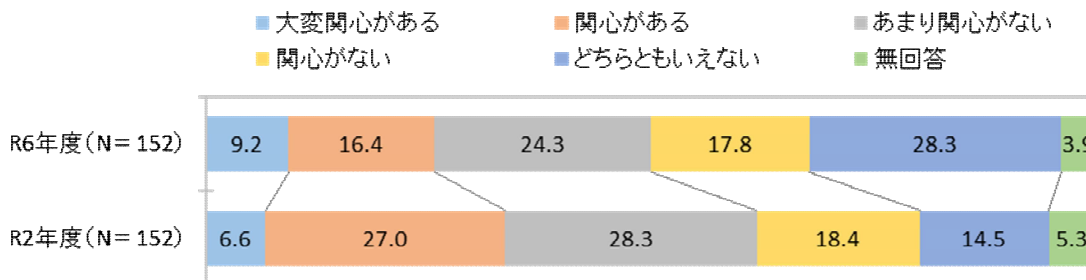
3) 現在、情報発信について困っている内容 (複数回答可)



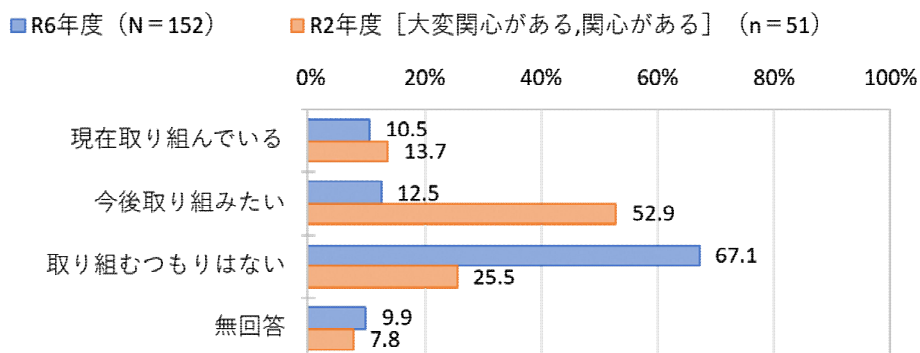
3. コミュニティビジネスについて

問16 「コミュニティビジネス」について

1) 「コミュニティビジネス」への関心度



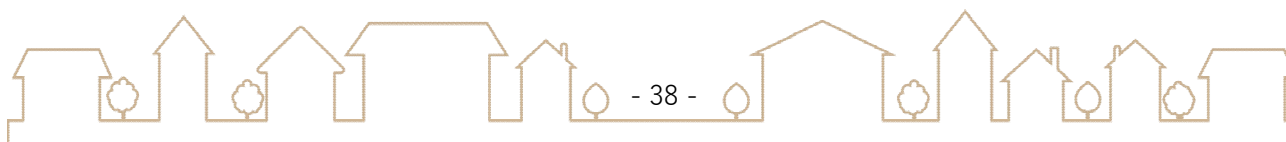
2) 「コミュニティビジネス」への取組状況と今後の意向 (複数回答可)



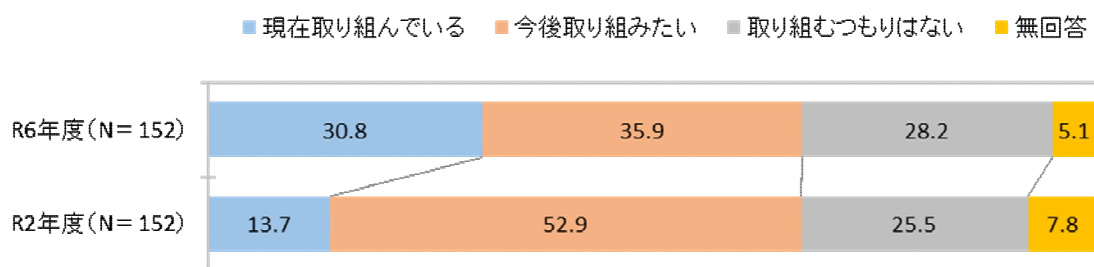
※前回調査との比較

【変更点】一部団体回答から全団体回答へ変更

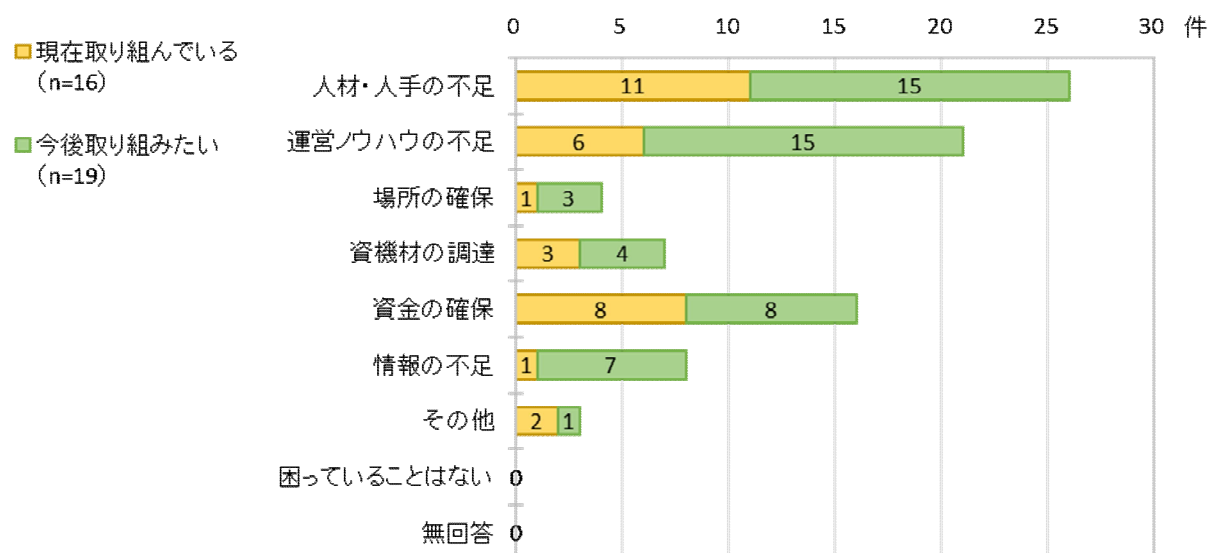
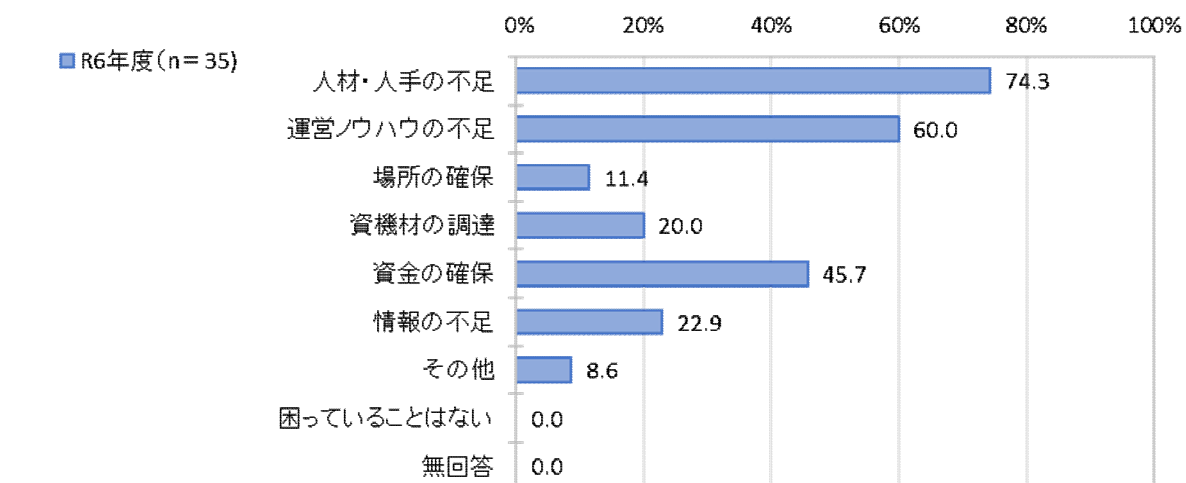
【理由】全団体の方向性を正確に把握するため



コミュニティビジネスに『関心がある』（「大変関心がある」「関心がある」を合計）



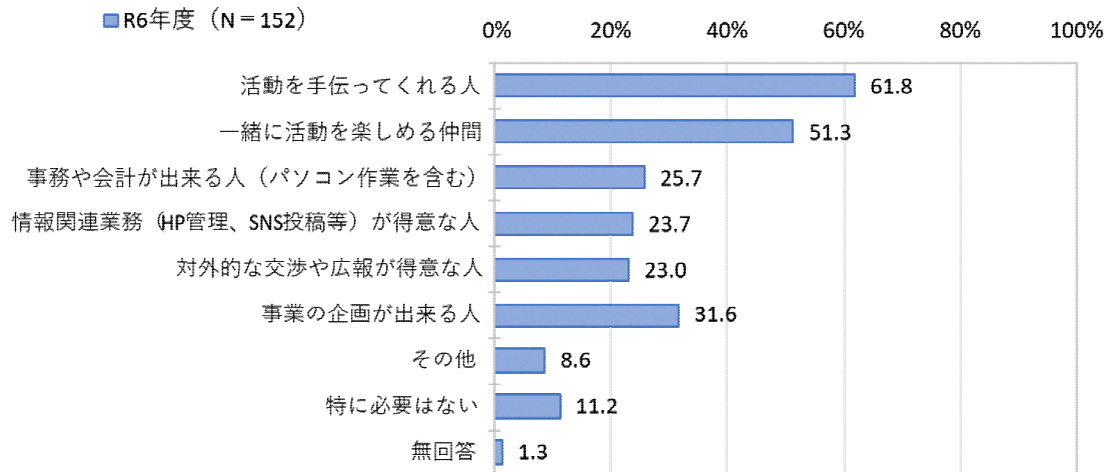
3) 「コミュニティビジネス」を進める上で困っていること (複数回答可)



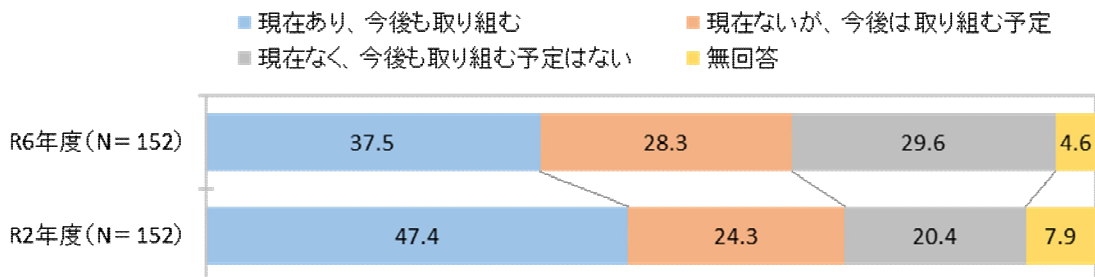
4. 人づくりについて

問17 人材確保や人材育成等について

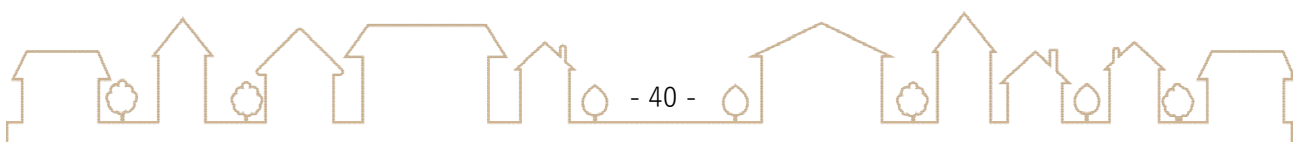
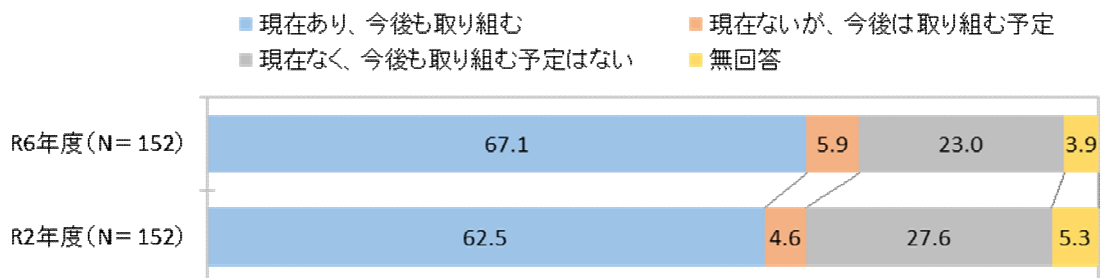
1) 現在、必要としている人材 (複数回答可)



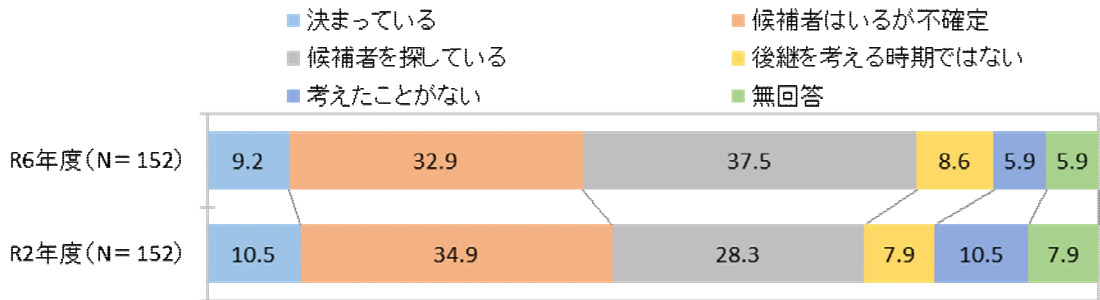
2) 担い手・支え手を呼び込むための取組状況と今後の取組意向



3) 子ども、若者が参加する活動の取組状況と今後の取組意向



問 18 活動の後継人材の有無

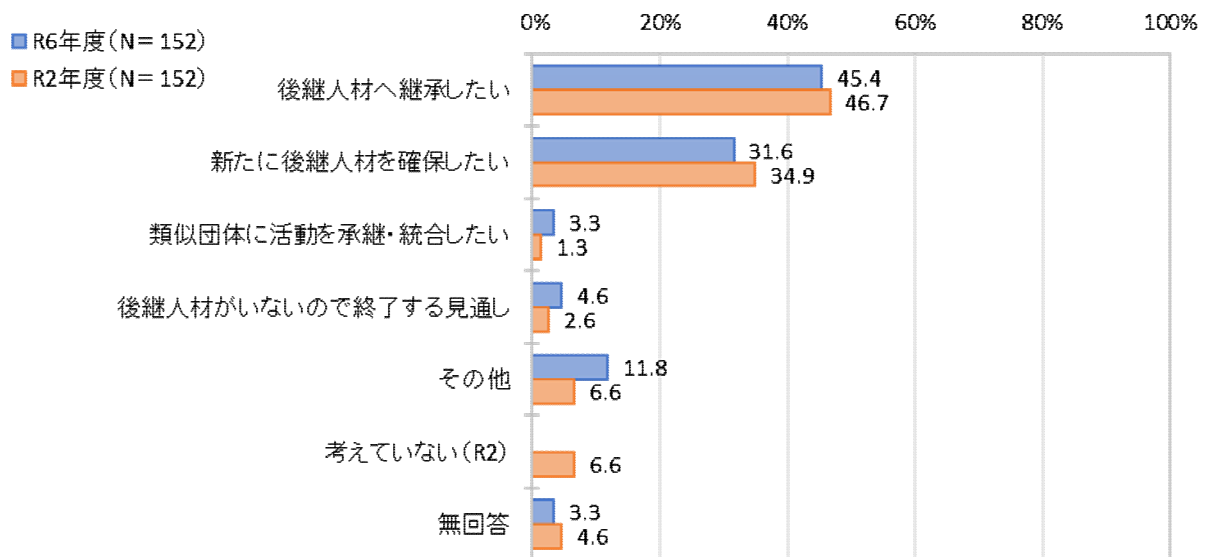


※前回調査との比較

【変更点】複数回答から単数回答へ変更

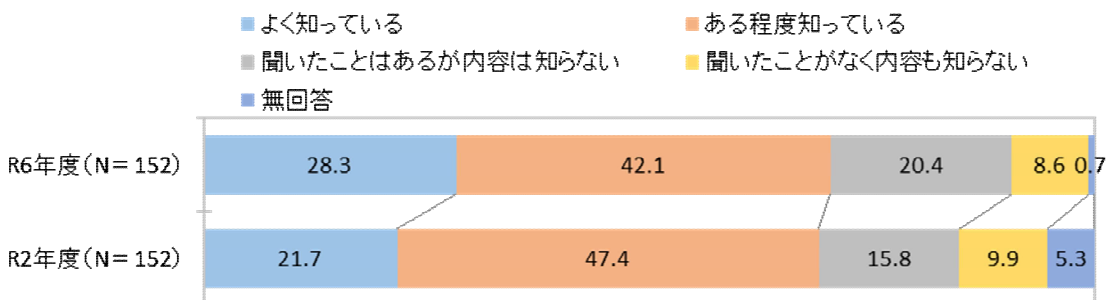
【理由】団体の方向性を正確に把握するため

問 19 今後の組織・活動の継承についての考え (複数回答可)



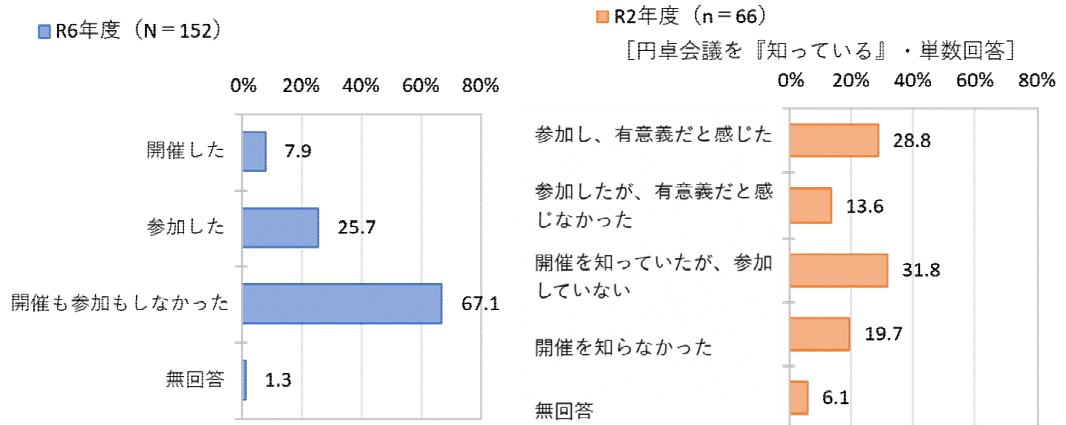
5. 廿日市市協働によるまちづくりについて

問 20 「協働」についての認知度



問 21 「円卓会議」について

1) この1年間の「円卓会議」の開催、参加の状況 (複数回答可)

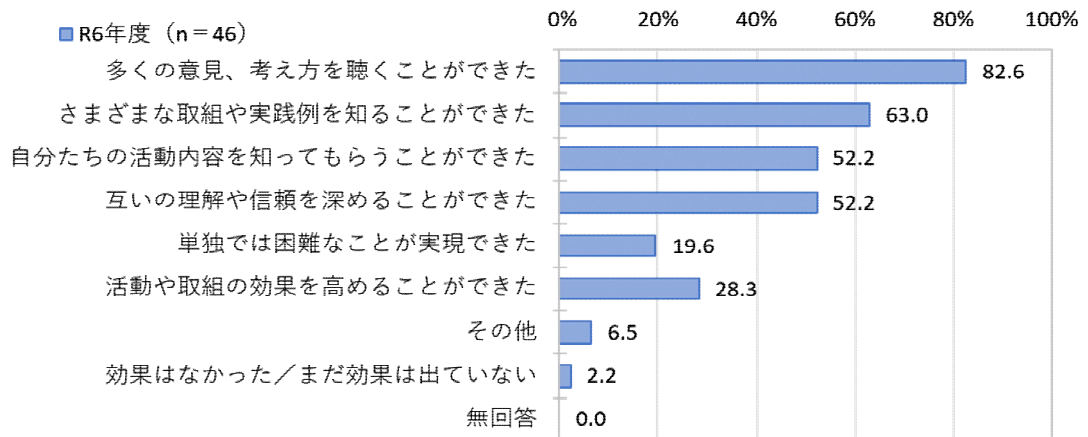


※前回調査との比較

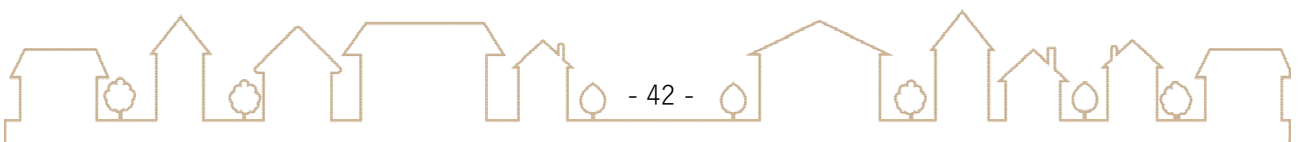
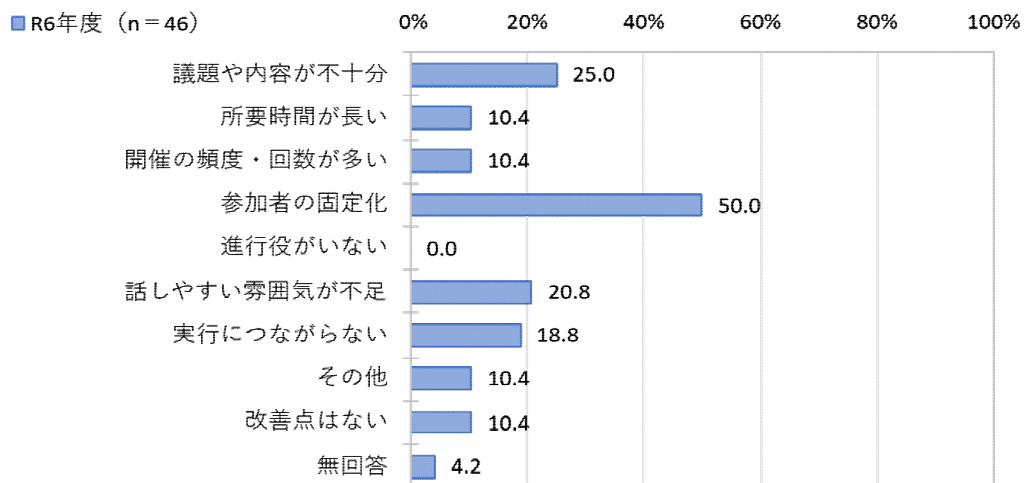
【変更点】一部団体回答から全団体回答へ変更

【理 由】全団体の現状を把握するため

2) 開催または参加した「円卓会議」の効果

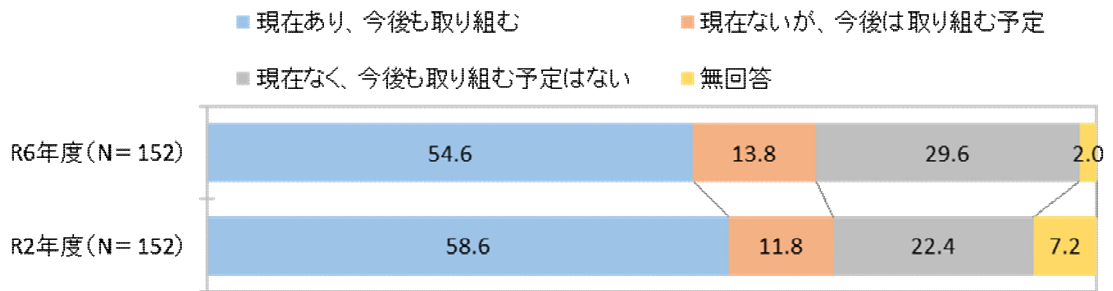


3) 開催または参加した「円卓会議」の改善点 (複数回答可)



問 22 多様な主体との関わり（協働で取り組む機会）について

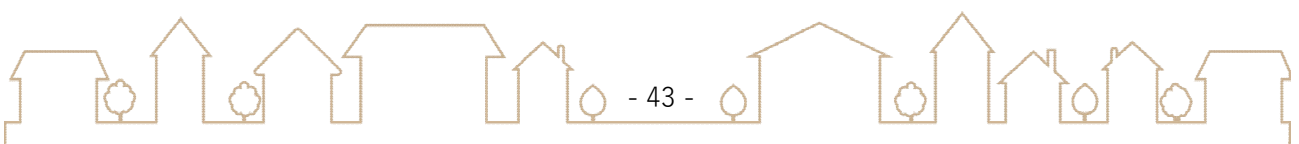
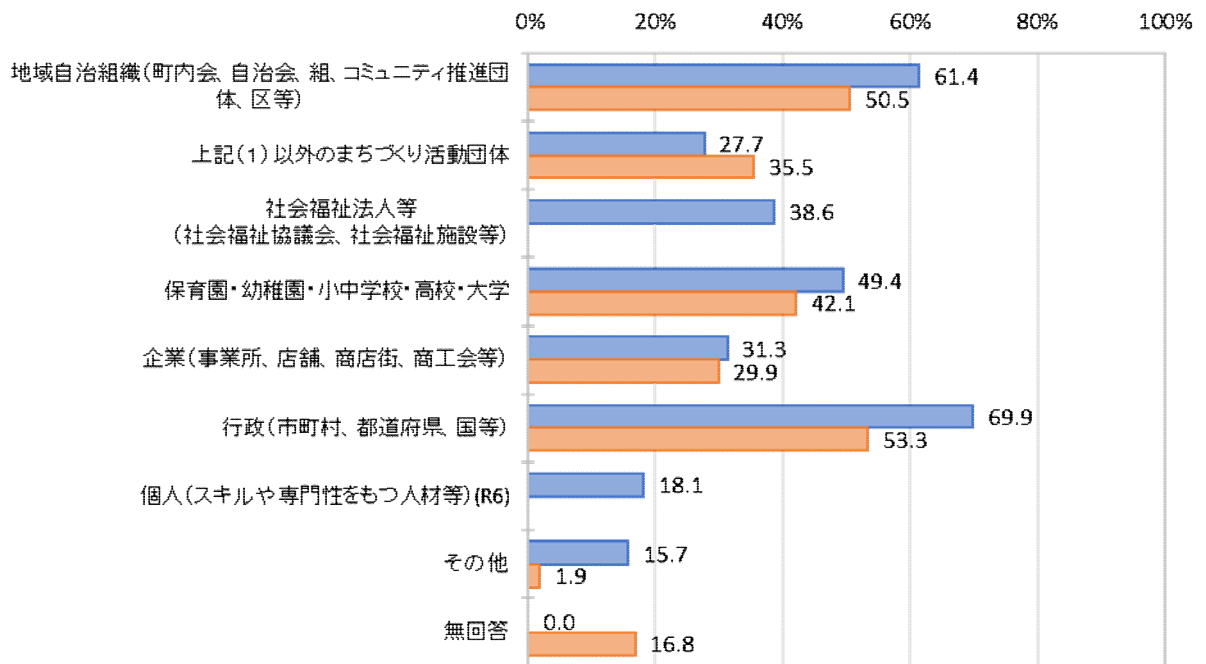
1) 他の主体との関わりの状況と今後の意向



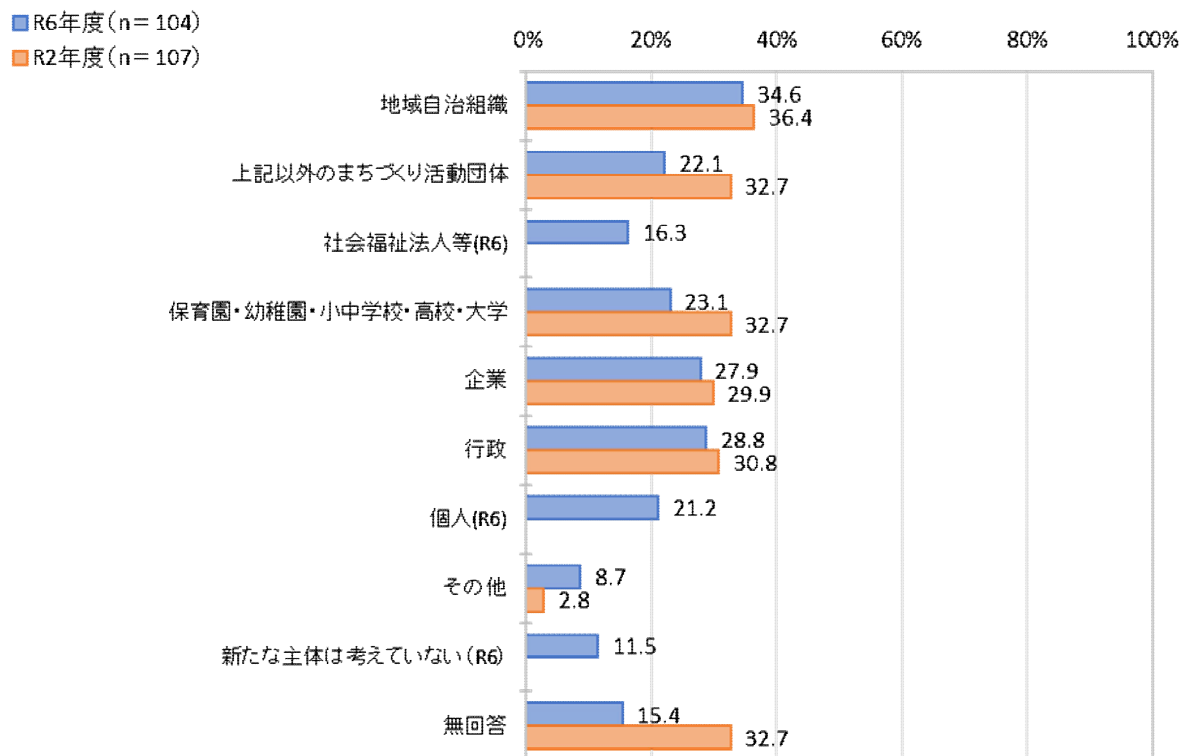
2) 現在、活動において関わりがある主体（複数回答可）

■ R6年度[現在あり,今後も取り組む] (n= 83)

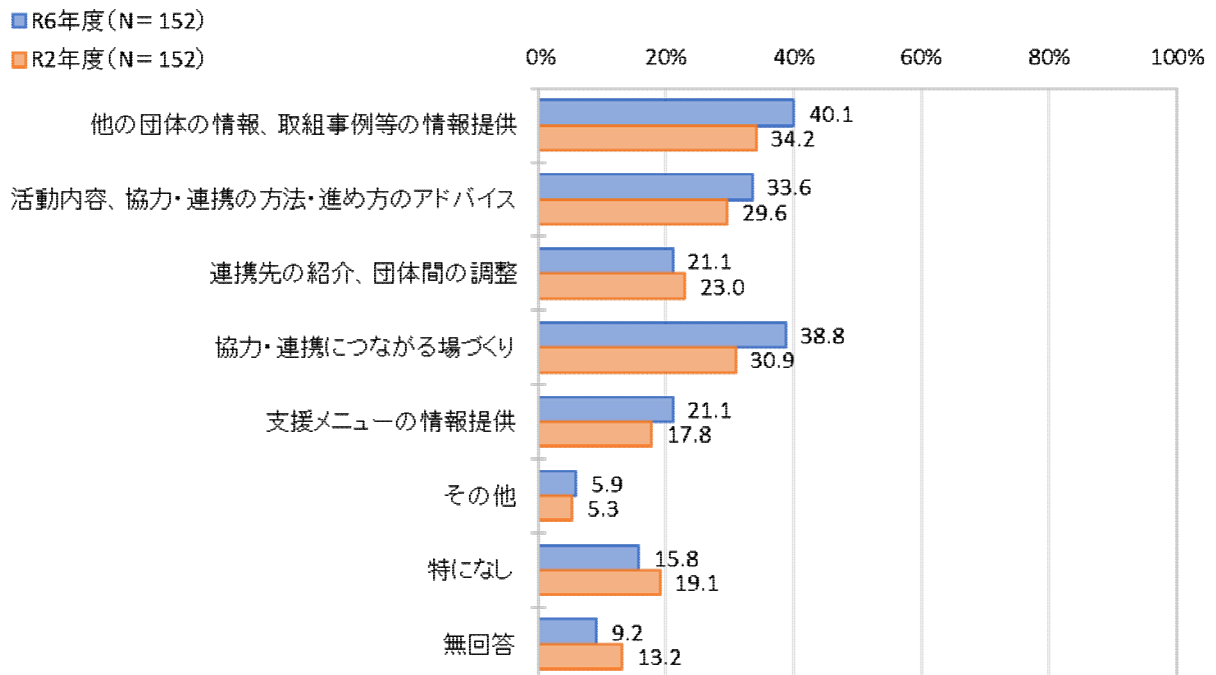
■ R2年度[現在あり,今後も取り組む、現在ないが,今後は取り組む予定] (n= 107)



3) 今後、活動において関わりをもちたい主体 (複数回答可)



問 23 他の主体と関わる際、行政に特に期待すること、求めること (複数回答可)



指標と目標値の考え方

本計画で示している各指標の目標値について、数値設定の考え方をまとめています。

【めざすまち指標と目標値】

指標名	現況値 (R6年度)	目標値 (R12年度)	目標値設定の考え方
市に自分のまちとしての愛着がある市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	76.7%	80.0%	現況値で「どちらともいえない」と回答した人（15.1%）のうち、その約4分の1から肯定的な回答を得ることを目標とします。

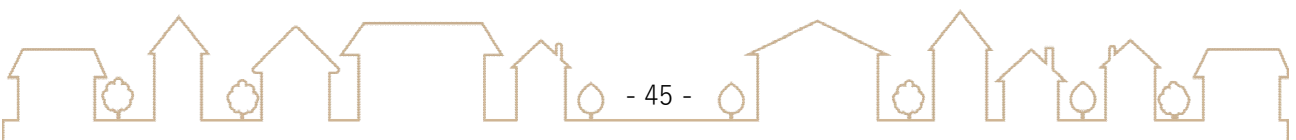
【協働によるまちづくりを推進する仕組みごとの成果指標と目標値】

（1）特性を生かしたまちづくり

指標名	現況値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	目標値設定の考え方
多様な主体が連携して、地域課題の解決に向けた取組が行われていると思う市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	17.7%	30%	現況値で「どちらともいえない」と回答した人（50.7%）のうち、その約4分の1から肯定的な回答を得ることを目標とします。

（2）情報発信による信頼関係づくり

指標名	現況値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	目標値設定の考え方
市公式ホームページの年間ページビュー数	472万回 (R6年度)	500万回	近年の推移を踏まえ、情報発信の充実等により毎年度1%程度の増加を見込み、500万回を目標値とします。
市公式LINEのお友だち登録数	25,961人 (R6年度)	43,000人	他市町の状況等を踏まえ、お友だち登録割合を人口（115,658人：令和6年4月1日現在）の約37%とすることを目標とします。
市民と、情報共有を図りながら仕事を進めることができた職員の割合 ※協働によるまちづくり職員アンケート	64.6%	81.0%	現況値で「できていない」と回答した人（32.7%）のうち、その約2分の1から「できた」と回答を得ることを目標とします。

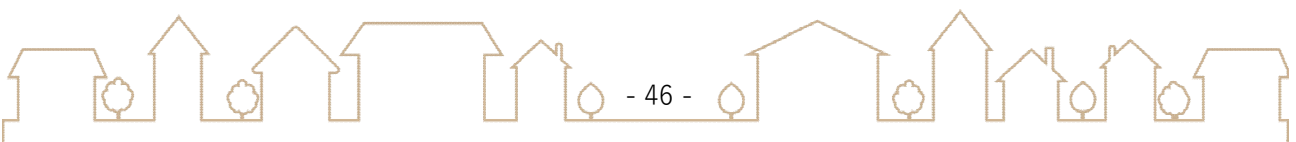


(3) 人づくり

指標名	現況値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	目標値設定の考え方
学んだことを地域や社会に生かした市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	8.1%	11.0%	内閣府が実施した「生涯学習に関する世論調査(2022(令和4)年7月調査)」では、14.6%の人が「学習した成果を地域や社会での活動に活かしている、または活かせる」と回答しています。2035(令和17)年度に、この水準への向上を目指し、前期基本計画期間は、その約半数にあたる2.9ポイントの増加を目標とします。
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査(文部科学省)	(小学校) 84.9% (中学校) 77.7%	(小学校) 87.5% (中学校) 80.5%	現況値で「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童(11.4%)、生徒(17.3%)のうち、その約5分の1から肯定的な回答を得ることを目標とします。
地域主体の活動に参加している市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	24.7%	28.5%	現況値で「ほとんどしていない」と回答した人(14.8%)のうち、その約4分の1から肯定的な回答を得ることを目標とします。
行政が、地域のことを真剣に考えていると思う市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	29.1%	35.0%	現況値で「どちらとも言えない」と回答した人(43.5%)のうち、その約10分の1から肯定的な回答を得ることを目標とします。

(4) 評価及び支援

指標名	現況値 (R7年度)	目標値 (R12年度)	目標値設定の考え方
ボランティア活動の支援など、市民が活動しやすい環境づくりに満足している市民の割合 ※まちづくり市民アンケート	6.0% (R6年度)	8.0%	近年の推移を踏まえ、満足と回答した割合が最も高かった令和元年度(7.8%)を上回る回答を得ることを目標とします。



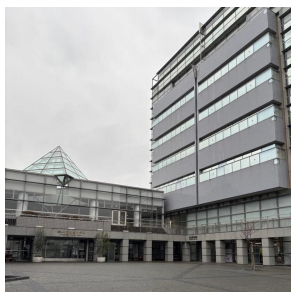
協働によるまちづくりを推進する上で役に立つ情報を掲載しています。
取組の実践やまちづくり活動への支援などの参考として活用してください。



●廿日市市がめざす「協働によるまちづくり」について、より一層理解を深めることができるよう「廿日市市協働によるまちづくり基本条例（逐条解説）」などを掲載しています。



市公式HP【廿日市市協働によるまちづくり基本条例】▲



●本市のさまざまな「まちづくりの拠点」となる施設を紹介しています。まちづくりに関する課題や市民からの要望・相談については、地区や地域だけでは対応が難しく、「まちづくりの拠点」同士の連携・協力が必要になるケースが少なくありません。そのため市の職員は、「まちづくりの拠点」となる施設やその役割等について、しっかりと把握・理解しておく必要があります。



市公式HP【「まちづくりの拠点」を紹介します】▲



●「まちづくりに関わりたい」、「まちづくり活動をやってみたい」と考えている人たちを後押しできるように、まちづくり活動をはじめの際に参考になる事例や活動の相談窓口等を紹介しています。



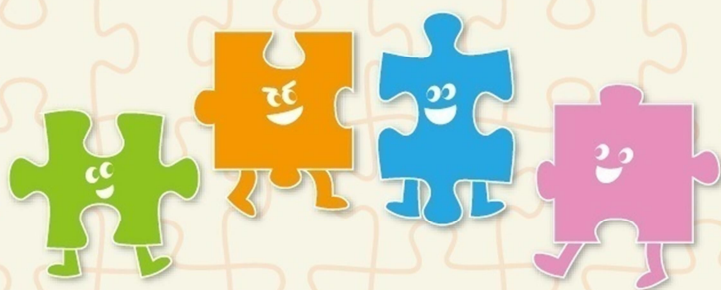
市公式HP【協働によるまちづくりハンドブック】▲



●市内28地区にある「地域自治組織（地縁に基づくつながりによるまちづくりに取り組む団体）」の活動を紹介します。地域自治組織は、地域に暮らすみんなで住みやすいまちをつくるために、防災や環境衛生など身近な課題の解決に向けて活動しており、本市の協働によるまちづくりを進めるために欠かすことができない存在です。



市公式HP【廿日市市のまちづくり活動を紹介します】▲



廿日市市地域振興部地域振興課
広島県廿日市市下平良一丁目11-1
TEL:0829-32-3810(地域協働係)
2026年 3月 発行



第2回審議会等における「第4期計画（案）」への意見及び回答一覧

(資料2)

番号	意見	該当箇所	回答
1	第1期から第3期までの計画自体の振り返りや、第4期でどう変わろうとしているのかの記述が必要ではないか。	1ページ 【1計画の主旨】	第1章「1計画の趣旨」に、これまでの計画を振り返る文章を追記しました。また、第4期の計画ではこれまでの取組を継承・発展させるとともに、現状を踏まえ、市の責務を果たし、「協働によるまちづくり」を確実に推進していく旨を記載しました。 (追記後※見え消し) 本市では、平成24年(2012)年3月に制定した「甘日市市協働によるまちづくり基本条例(以下「条例」という。)」に基づき「甘日市市協働によるまちづくり推進計画(以下「計画」という。)」を策定し、 さまざまな人や組織と力を合わせることで、より大きな成果を挙げる「協働型」の取組を通じて、めざすまちの姿(新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き!」と言えるまち)の実現に取り組んでまいります。 これまでの3期にわたる計画では、市の職員の協働に対する意識強化をはじめ、さまざまな人や組織の力を、日々の仕事(公共の取組)に生かし、より大きな成果につなげていく「協働型」の取組を実践し、評価や検証、見直しを繰り返しながら、協働による持続可能なまちづくりを推進してきました。 この「第4期甘日市市協働によるまちづくり推進計画」では、本市のまちづくりに関わるさまざまな人や組織の協力のもと分析・評価した「協働によるまちづくりの現状」を踏まえ、これまで本市が実践してきた協働によるまちづくりの取組を継承・発展させるとともに、 私たちが直面している新たな社会情勢の実情を踏まえ、市が今後、どのような方針のもと、その責務を果たし、「協働によるまちづくり」を推し進めていくのかを示したものです。確実に推進していくための取組方針を新たに定めた、第4期計画を策定します。
2	はつかいち未来ビジョン2035の策定は下記の考え方を重視しました。これの趣旨も付記できないでしょうか。 2 計画策定にあたっての基本的な考え方(1) 市民参画 甘日市市協働によるまちづくり基本条例に基づき、多様な市民参画の機会を設け、市民・事業者等との対話を通じて、まちづくりの課題を共有するとともに、ニーズを把握し、計画に反映します。	1ページ 【2計画の位置付け】	市の総合計画である『はつかいち未来ビジョン2035』が「甘日市市協働によるまちづくり基本条例」に基づき、市民参画の視点を大切に策定された旨を追記しました。 (追記後※見え消し) 本市の総合計画である『はつかいち未来ビジョン2035』では、 条例に基づき、多様な市民参画の機会を設け、まちづくりの課題やニーズを共有・把握し、反映することを基本的な考え方として、策定しています。 また、「多様な主体によるまちづくり」を、まちの将来像の実現に向けた「大切に考える考え方」として設定し、全ての施策分野に共通する重要な視点として位置付けています。
3	図中の「人づくり」の部分について、「協働によるまちづくりの担い手として」を「協働によるまちづくりの支え手として」に修正してはどうか。	●2ページ 【4計画の体系図】 ●15ページ 【取組方針】 ●28ページ 【未来への提案】	いただいたご意見を生かし、市職員によるまちづくりへの関わり方として、「担い手」だけでなく市民が主体的に行うまちづくりの「支え手」であることが伝わるよう、追記しました。 (追記後※見え消し) 協働によるまちづくりの担い手・支え手としてふさわしい職員の育成
4	第3期では成果指標がなかったが第4期はある。なぜ成果指標が必要なのかについての記述が必要ではないか。	3ページ 【5実効性の確保】	いただいたご意見を生かし、第1章「5実効性の確保」に、成果指標(目標)が必要になった理由を追記しました。 (追記後※見え消し) 本計画では、市の取組によって直接的・間接的に、市民の意識や行動に表れる変化(仮説)を目標とし、「計画全体のめざすまち指標と目標値」と「推進する仕組みごとの成果指標と目標値」として設定しました。 また、協働によるまちづくりを実効性のあるものとするため、「協働によるまちづくり審議会」が主体となり、各年度における「めざすまち指標と目標値(計画全体の成果指標と目標値)」及び協働によるまちづくりを推進する仕組みごとの「成果指標と目標値」の達成状況指標の数値の推移や市の取組等をもとに、計画の実施状況について点検評価・検証を行い、必要に応じた取組の見直しを行うものとします。
5	通常、条例は参考資料として載せるのが一般的。それが第2章を使って、条例だけが載っているのは理解しがたい。ここに条例を載せるのであれば、条例のポイントやキーワード、甘日市市が条例を作った思いなどを記述し、後段につながるようにしてほしい。	4ページ 【第2章全体】	条例の条文ではありますが、まちづくりを進める上での基本原則など常に意識しておくべき事項について掲載しています。第2章に、条例の一部のみが掲載されている意図が伝わるよう、説明文を追記しました。また、条例を定めた思いについては、条例の前文に記述があるため追加での記述は行わないこととしました。 (追記後※見え消し) 第2本章では、本計画がめざしているまちの姿や使用する用語の意味定義、大切にすべき考え方協働によるまちづくりを進める上での市民の役割や市の責務など、本計画に掲げた取組方針を実行する上で理解しておくべき基本的かつ重要な事項について、基本条例の条文を用いて説明前文から第6条を掲載しています。
6	4ページの前文の、『はつかいちが好き!』というワードはとても大切な言葉のメッセージなので、文章を改行して、途切れないように工夫すべき。また、その下のイラストもご年配の方でも文字が読めるよう、もう少し大きくした方がよい。	4ページ	「はつかいちが好き!」が途切れないように修正し、イラストや文字を大きくしました。

7	9ページの地区や地域のまちづくりの拠点という表現だと、市民はわからない。市民センターとか、具体的な場所が入っていると分かりやすい。	9ページ 【取組方針①まちづくりの拠点の体制及び環境整備】	第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(1)」の取組方針「①まちづくりの拠点の体制及び環境整備」の文章に、まちづくりの拠点の例を追記しました。 (追記後※見え消し) 地区や地域、 市域市民センター、支所(廿日市地域においては、本庁)、市民活動センター等のまちづくりの拠点が、より一層連携し、それぞれの拠点が実践したり把握しているまちづくりに関する情報を共有することで、市民の期待や要望に、より適切かつ柔軟に対応できるよう、体制の整備に取り組みます
8	○円卓会議の形は地域によって、様々に変わってきているのではないかと。計画に一つ一つの地域の実情を書くのは難しいと思うので、円卓会議を今後も大切に、地域の実情に合わせた形を作っていくように書いてほしい。 ○まちづくりだけでなく、別のテーマで開かれるワークショップなど、別の方向から地域の良さがわかるきっかけになるものも円卓会議だと認識してもらえれば、円卓会議の敷居が下がるのではないかと考えている。 ○地域の課題をもとに話をすると、限られた人しか集まらない。楽しいしゃべり場にしたたり、困ったことを言いに行く場所にするなど、円卓会議の敷居を下げることも大切。 ○若い人がなかなか来ないのは、入りづらいのだと思う。	①9ページ 【取組方針②円卓会議の推進】 ②27ページ 【未来への提案】	①第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(1)」の取組方針「②円卓会議の推進」の文章に、地域の実情に合った円卓会議をイメージできる文章を追記しました。 (追記後※見え消し) さまざまな区域場面で開催される円卓会議が、より効果的に進められ多様な人たちが集い、互いの取組やまちづくりへの思いを安心して対等な立場で話し合うことができるよう、会議のコーディネートやファシリテート、開催に関する情報発信等、市民のニーズに応じた適切な自主性・自立性を尊重した支援(自主性・自立性を尊重した支援)に取り組みます。 ②資料編「3未来への提案」の「円卓会議の推進」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) さまざまな人が気軽に集える、若い人も参加しやすくするなど、円卓会議の敷居を下げる
9	ホームページの年間ページビュー数の目標値が500万回となっているが、5年で少ししか増えないというのは、目標値が低すぎるのではないかと。	11ページ 【成果指標と目標値】	過去のビュー数の集計結果の推移を踏まえて目標値を設定しており、はつかいち未来ビジョン2035に掲げる成果指標や目標値と整合をとっているため目標値の修正は行いませんが、各部署が情報発信の基盤となるホームページを充実させ、目標値の達成に向けて取り組みます。
10	○情報発信の成果指標について、SNSを活用する上で市民にとって身近なLINEも大切だと思う。 ○情報発信について、LINEは今では重要なツールだと思っている。 LINEのお友達登録の数を指標にしてもいいのではないかと。	11ページ 【成果指標と目標値】	いただいたご意見を生かし、第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(2)」の成果指標に「市公式LINEのお友達登録数」を設定しました。 (設定内容) 成果指標：市公式LINEのお友達登録数 現況値：(令和6年度)25,961人 目標値：(令和12年度)43,000人 ※令和6年4月1日現在の人口(115,658人)×37%=42,793人≒43,000人
11	○11ページや15ページ等に記載している令和12年度の目標値を矢印にしているが、わかりにくい。 ○目標値の矢印について、令和12年までにどこまで持っていきたいか、具体的な数字が入っていた方がそこに向かいやすいのではないかと。 ○見る人からしたら目標値が入っている、入っていないものの差がわからない。目標値を入れるか入れないかは統一すべき。	①11ページ 【成果指標と目標値】 ②15ページ 【成果指標と目標値】 ③17ページ 【成果指標と目標値】	①第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(2)」の成果指標「一緒に取り組む相手と、情報共有を図りながら進めることができた事業の割合」の目標値(令和12年度)を設定しました。 (設定内容) 目標値：(令和12年度)現況値+25% ※令和7年度から新たに調査していく指標であるため現況値はありませんが、計画期間中(令和8年度から令和12年度の5か年)、1年に5%(5年で25%)の向上をめざすこととしました。また、部署ごとに自己評価を行うのではなく、職員一人ひとりの仕事の進め方に協働の理念を浸透させるため、成果指標の記載内容を次のとおり修正しました。 (追記後※見え消し) 「一緒に取り組む相手市民と、情報共有を図りながら自分の仕事を進めることができた事業職員の割合」 ②第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(3)」の成果指標「行政が、地域のことを真剣に考えていると思う市民の割合」の目標値(令和12年度)を設定しました。 (設定内容) 目標値：(令和12年度)35.0% ※計画期間中(令和8年度から令和12年度の5か年)に、「どちらともいえない」と回答した市民(43.5%)のうちの1割(4.35%)以上を、「行政が、地域のことを真剣に考えていると思う」にシフトしていけるよう目標値を設定しました。令和7年度の現況値(29.1%) + 4.35% = 33.45% ≒ 35% ③第3章「協働によるまちづくりを推進する仕組み(4)」の成果指標「ボランティア活動の支援など、市民が活動しやすい環境づくりに満足している市民の割合」の目標値(令和12年度)を設定しました。 (設定内容) 目標値：(令和12年度)8.0% ※過去10年間(平成26年度から令和6年度)の間の最高値7.8%(令和元年度)を上回るよう目標値を設定しました。
12	取組方針の②のなかに、「子どもや若者が主体的にまちづくりの参画することを応援します」あるいは「子どもや若者が主体的にまちづくりに参画できる環境を整えます」という文章を付記できないかと。	13ページ 【取組方針】	いただいたご意見を生かし、「取組方針」の「②子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成」の文章に、子どもや若者も主体的にまちづくりに活動に関わることができるよう取り組む旨を追記しました。 (追記後※見え消し) 学校や地域住民、市の関係課等、多様な主体が連携・協力し、地域全体で子どもや若者の学びや成長を支えていくことで、主体的にまちづくりに参画できる環境を整えるなど、地域への愛着と誇りを育み、よりよい未来について考え、まちづくりを担っていける人材の育成に取り組みます。

13	「坂道サポート便」と称して高齢者向け近距離モビリティサービスを有償ボランティアで行うシステムがあれば助かる。それにより、高齢者の「買い物・通院困難」や「移動困難による閉じこもり」などを解消して、地域で自立的な生活の支援をするというビジョンに繋がる。	27ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「ビジネスの手法を取り入れたまちづくり活動の推進」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 高齢者の「買い物・通院」や「閉じこもり」などの解消につながる近距離モビリティサービス等の有償ボランティアに期待
14	地区ごとの各市民センターの活動内容紹介について、より見やすいシステム構築してほしい。	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「情報発信による信頼関係づくり」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 市民センター等で行われている活動内容が一目でわかるようなシステムの構築
15	協働によるまちづくりを推進する仕組み(3)人づくりの項目で「個人」と「個人」の繋がり一例として「幼老統合ケア」という言説を取り入れてみてはどうか。この考えは、「子育て支援」と「高齢期の健康」という施策を横断的に個別に扱うのではなく、両者を統合してライフプランの観点から縦の支援という発想です。	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「人づくり」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 子どもと高齢者が交流し、「子育て」と「高齢期の健康」を統合的に支える「幼老統合ケア」の推進
16	小規模な活動の場合、自身のSNSで投稿するだけで良いのか。例えば「廿日市市の地域振興課」のSNSがあって、小規模団体の活動情報を発信したり、いいねやフォローなどで発信を担うのはどうか。(いいねやフォローをする行為そのものが、まちづくり参加という考え方もできる)	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「情報発信による信頼関係づくり」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) SNSでの発信力がある組織が、小規模団体の活動情報を発信する
17	「人づくり」全体が弱い気がするため、もっと、「将来は廿日市を良くする仕事かしたい」みたいな、「就職」「この地に住み続ける・生きる力」みたいな色を加えるのはどうか(市役所職員でも良い)。人手不足の分野に、前向きで有望な人材とマッチングがおきるのではないか。	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「人づくり」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 廿日市市をよくするために働きたい、廿日市市に住み続けたいと思ってもらえる環境づくりが大切
18	取組方針②の「子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成」について、より良いまちづくりや地域活動の活性化には、若者同士の関係構築とその支援も重要だと感じる。若者同士の関係構築を促進したり応援したりする学びの場や活動の場を積極的に作るというニュアンスを加えていただきたい。	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「子どもや若者の地域への愛着と誇りの醸成」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 若者同士の関係構築や学びの場、活動の場を積極的につくる
19	今後は第4期の推進計画に基づいた活動や成果事例等をSNS等でより多く発信していく事で、市民にこの活動への理解を周知させる事ができ、より多くの市民の参加に繋がると考える。	28ページ 【未来への提案】	資料編「3未来への提案」の「情報発信による信頼関係づくり」に、今後の本市の協働によるまちづくりを推進していくための提案として追記しました。 (追記内容) 本計画の取組や成果をしっかりと市民に伝え、市民のまちづくりへの参加を促す
20	第4期推進計画の該当箇所に令和12年度の目標値の根拠をわかる範囲で記載すると、読み手の理解が深まるのではないかと。	45・46ページ	読み手の理解が深まり、より効果的に計画に取り組めるよう、目標値の考え方を45・46ページに追加しました。
21	○スポンサーを募って活動している団体もまちづくり活動団体と考えている。そのような人がどこに相談したら良いかがこの計画でわかるとよい。 ○地域を越えてつながろうと思ったときの相談先は、市民活動センターだと思う。市民活動センターの役割をあらためて計画に入れてはどうか。 ○市民センターへの問合せをどうつないでいくかは非常に大切なことなので、計画への反映をお願いしたい。 ○相談したい時の実際の道筋を図示できるとよいのではないかと。	47ページ	各種情報を掲載するページを最終ページに追加しました。 (考案方) まちづくりに関する相談や、解決までの道筋は多岐にわたることから、本計画の中で明確な道筋を図式化していくことは難しいですが、重要なご意見として受けとめています。本市の「協働によるまちづくり」について理解を深めたり、「まちづくりの拠点」となる施設の役割等についての情報等を得られるページを追加しました。
22	地域自治組織は「まちづくり活動団体」として括られているが、まちづくり、協働への関わりは非常に大きいと感じている。主体的な団体として記載をお願いしたい。	47ページ	協働によるまちづくりを進める上での重要なパートナー「地域自治組織」について、理解を深めるための情報を最終ページに追加しました。
23	目標値について、現況値が令和6年度と令和7年度が混在しているので、そろえた方がいい。	全ての成果指標と目標値	現況値の年度は、これまで通り、混在させていただくこととしました。 (考案方) 本計画の成果指標のほとんどは、市の取組によって直接的・間接的に、市民の意識や行動に表れる変化(仮説)を目標として設定しています。市でも当初、年度をそろえたいという思いはありましたが、より最適と思われる成果指標を検討した結果、令和7年度から調査している指標や令和8年度から調査していく指標も設定させていただきました。
24	より多くの方に届くよう「分かりやすさ」と「中身と合った」イラスト表現があるといい。 (具体例) ・「廿日市らしさ」はイラスト表現の方がわかりやすい ・様々な人の立場に、心に寄り添う ・拠点となる建物を具体的な名称で思い描いた方が伝わりやすい(例：市民センターに人が集まってくるイラスト等)	全体	いただいたご意見を生かし、より読み手に伝わりやすい計画になるよう、イラストの活用やデザインの工夫を行いました。

(資料3)

協働によるまちづくりの 実施状況に係る総合的評価

令和8年3月11日

【総合的評価の趣旨】

本市では、これまで3期にわたり「廿日市市協働によるまちづくり推進計画」を策定し、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き！」と言えるまちづくりを進めてきました。

この度の評価は、これまでの継続的な取組の成果として、「現状（各種調査・聞き取りを実施した時点）の本市のまちづくりが、しっかりと協働により進められているか」という視点で、本市の協働によるまちづくりの実施状況等を総合的に評価し、その実情を今後の協働によるまちづくりに的確に反映させていくために実施したものです。

【総合的評価の方法と第4期推進計画への反映について】

総合的評価については、本市における協働によるまちづくりの実施状況等を把握するために実施した、各種調査や聞き取り内容をもとに、第3期推進計画で定めた推進体系の5つの「協働によるまちづくりを推進する仕組み」ごとに、その実施状況等を総合的に分析・評価しました。

また、この評価結果については、令和8年度から新たに実践していく「第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画」における「計画の趣旨」や「現状分析」に反映しています。

【総合的評価に使用した、各種調査や聞き取り内容】

○【令和6年度】本市の取組事業の実施状況及び協働のプロセス評価

市が令和6年度に協働で取り組んだ事業や取組、協働で取り組んだことにより生まれた成果等について調査しました。

○まちづくり活動団体等アンケート

まちづくり活動団体の活動内容や協働によるまちづくりの実施状況等について調査しました。

○協働によるまちづくり審議会

市の附属機関である審議会において、現状の本市の協働によるまちづくりにおける成果や課題等について意見をいただきました。

○協働によるまちづくり推進計画策定委員会

本市における協働によるまちづくりの現状や課題、今後より「協働」を進めていくための市民と市の役割分担、総合的評価等について意見をいただきました。

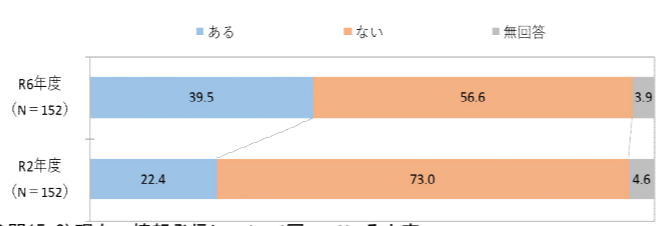
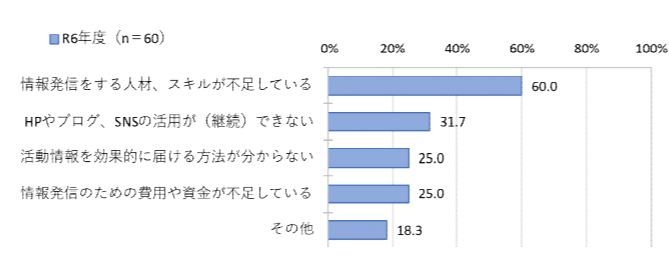
【第3期計画の推進体系】

基本原則	推進する仕組み	施策の方向性
1 誰でもまちづくりに取り組むことができます	総合的評価シート⑤ めざすまちに向かって	<ul style="list-style-type: none"> ■協働の理念共有 ■協働によるまちづくりの実践・成果の共有
2 互いの自主性を尊重しながら取り組みます	総合的評価シート① 特性を生かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ■協働による持続可能なまちづくりを支える環境整備
3 互いの自立性を尊重し、対等な関係で取り組みます		<ul style="list-style-type: none"> ■コミュニティビジネスの普及と推進 ■地域課題解決に向けた円卓会議の推進
4 それぞれの地域性を大切にしながら取り組みます	総合的評価シート② 情報発信による信頼関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■受け手の立場に立った情報発信・共有の推進
5 情報の共有を図りながら取り組みます	総合的評価シート③ 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■知識・技能をまちづくりにつなげる ■若い世代が参加しやすい機会づくり
6 互いに信頼関係を築いて取り組みます		<ul style="list-style-type: none"> ■リーダーシップを発揮する人材の育成支援 ■人材を見いだすための交流の場や機会の提供
7 次代につながる人づくりをしながら取り組みます		<ul style="list-style-type: none"> ■協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成
	総合的評価シート④ 評価及び支援	<ul style="list-style-type: none"> ■互いを知り合う場の充実 ■市による評価及び支援


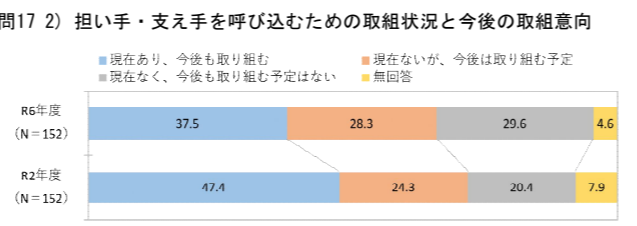
<p>第3期推進計画の 施策の方向性</p>	<p>○協働による持続可能なまちづくりを支える環境整備 ○コミュニティビジネスの普及と推進 ○地域課題解決に向けた円卓会議の推進</p>		
<p>(最終)総合的評価 【資料1:現状分析】</p>	<p>市民が取り組むまちづくり活動において、多様な主体がつながり連携・協力することで、「活動を通じて地域内での知り合いが増えた」、「協働した相手との新たな活動が生まれた」、「活動の広報がしやすくなり、集客が増えた」など、協働によるさまざまな効果が生まれてきています。 また、まちづくりの拠点については、市が各種事業等を通じてまちづくりに取り組むことはもちろん、市民のまちづくり活動の主な活動場所や相談先としても活用されています。 一方で、市民からは、まちづくりの拠点の運営体制等について、「気軽に、職員に相談できる雰囲気が必要」、「十分な引き継ぎが行われないうまま職員が異動すると、一緒に進めてきた活動が停滞してしまうことがある」、「市の職員は、もっと地域とのつながりをもつべき」など、さまざまな課題の声が挙がっており、改善が求められています。 また、多様な主体がつながり、まちづくりについて話し合う場「円卓会議」については、開催または参加したことがある市民の多くが、その有効性を感じている一方で、まちづくりに関わる市民からは、「もっと多様な主体が話し合う場が必要」、「同じ目的を持った人や団体等とつながりたい」、「収益を得ながらまちづくり活動を進める方法（コミュニティビジネス等）についての情報が欲しい」など、他の主体とのつながりや情報共有の場を求める声が少ないことから、「円卓会議」の十分な認知や活用にはつながっていない状況がうかがえます。</p>		
<p>審議会委員からの意見</p>	<p>① 市の職員間の引き継ぎについて、前の担当者と何回もかけて議論していることを新たな担当者が引き継ぐため、齟齬が生まれるのは当然。「市の職員が異動すると最初から説明が必要になることもあり、十分な引き継ぎが必要」という意見は記載する必要があるか。 ② 主語が「市民からは」となっているが、策定委員の意見ではないか。「市民」と書いてあると広く受け取ってしまう。活動をよく知ってる市民委員が重要と言われたとなると、少し重みづけが変わってくる気もする。 ③ 「円卓会議」という言葉がハードルや敷居が高いように感じる。</p>	<p>総合的評価への反映等の 考え方</p>	<p>① 「十分な引き継ぎが行われていない場合」という主旨に修正。 ② 「まちづくりに関わる市民」に修正 ③ 総合的評価の修正ではなく、円卓会議の好事例を掲載する。</p>
<p>【参考】 第1回審議会で提示した総合的評価</p>	<p>市民が取り組むまちづくり活動において、多様な主体と連携・協力することで、「地域内での知り合いが増えた」、「協働した人との新たな活動が生まれた」、「広報がしやすくなり、集客が増えた」など、協働によるさまざまな効果が生まれてきています。 また、市民センターや市民活動センター等のまちづくりの拠点は、市民の主な活動場所や相談先として活用されており、それぞれの拠点で、各種事業や取組を通じて協働によるまちづくりを実践しています。 一方で、市民からは、まちづくりの拠点の運営体制等について、「気軽に相談できる雰囲気が必要」、「市の職員が異動すると最初から説明が必要になることもあり、十分な引き継ぎが必要」、「市の職員が、もっと地域とのつながりをもつべき」など、さまざまな課題の声が挙がっており、その改善が求められています。 また、市民主体のまちづくり活動においては、「コミュニティビジネスについての情報共有が必要」、「多様な主体が話し合う場が必要」など、より効果的な活動につながる学びや情報共有の場が求められています。 円卓会議については、アンケート結果から、開催または参加したことがある市民の多くが、その有効性を感じている一方で、円卓会議に参加しなかったと回答した市民も非常に多いことから、円卓会議の有効性についての十分な認知や活用にはつながっていない状況です。</p>		

<p>調査・聞き取り 対象及び内容</p>	<p>(行政) 【令和6年度】 本市の取組事業の実施状況 及び協働のプロセス評価</p>	<p>(団体) まちづくり活動団体等 アンケート</p>	<p>(学識・団体・市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 審議会</p>	<p>(市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 推進計画策定委員会</p>
<p>総合的評価に関する 根拠や意見等 (抜粋)</p>	<p>【人づくり（仕組み全体に関わる根拠等）】 推進する仕組みの「人づくり」全体では、協働の取組として合計で32事業（全体＝110事業）の報告があり、本市で学ぶ子どもたちが、地域への愛着や誇りを育むためのさまざまな取組を行っている。 (事業例) ○地域学校協働活動 ○コミュニティ・スクール ○生涯学習フェスティバル ○ふるさと学習 また、地域メディア等と連携して、自らの学習の成果や地域の魅力を発信する場や機会を提供するなど、将来の担い手の育成に資する取組を行っている。</p> <p>【地域課題解決に向けた円卓会議の推進】 ○協働の取組として合計で8事業（全体＝110事業）の報告があり、取組の改善・向上の余地が大きい。</p>	<p>【協働による持続可能なまちづくりを支える環境整備】 ○問5 主な活動場所 ○問13 活動や運営に関する相談先</p> <p>【地域課題解決に向けた円卓会議の推進】 ○問21 1) 「円卓会議」の開催、参加の状況</p> <p>○問21 2) 開催または参加した「円卓会議」の効果</p>	<p>【知識・技能をまちづくりにつなげる】 ○まちづくりの方法等に関する講座(学びの場)を提供してほしい。</p> <p>【リーダーシップを発揮する人材の育成支援】 ○自主性がないと後継人材は育たない。活動も続かない。環境を整えることに尽力するべき。</p> <p>【コミュニティビジネスの普及と推進】 ○コミュニティビジネスとソーシャルビジネスは異なるものであり、コミュニティビジネス以外の視点も入れるか検討が必要。</p> <p>【地域課題解決に向けた円卓会議の推進】 ○多様な主体と一緒に話し合う場づくりを一生懸命進めていかないと住民の活動者だけでは地域の課題が解決ができない。</p>	<p>【若い世代が参加しやすい機会づくり】 ○学校の授業で地域の人と地域課題を考える場が必要。 ○既存の団体が子ども、若者と積極的に関わるべき。 ○若い人を応援する体制が必要。 ○負担が大きい(今のやり方を変える) ○地域への愛着を育てていく。 ○新しいことや新しい人などを受け入れる。 ○強制感・労働力としてだけでは難しい</p> <p>【コミュニティビジネスの普及と推進】 ○コミュニティビジネスにつながるアイデアや情報共有が必要。</p> <p>【協働を一歩進めるために必要と感じたこと】 ○他地域・他企業とのコラボ ○活動をするための資金 ○他団体とのマッチング</p> <p>【自らの実践・把握している取組における協働により生まれた効果】 ○知っている人が増える ○つながりによる新たな活動 ○広報がしやすい ○集客力が大きくなった ○口コミで来場者が増えた</p>

<p>第3期推進計画の 施策の方向性</p>	<p>○受け手の立場に立った情報発信・共有の推進</p>		
<p>(最終)総合的評価 【資料1:現状分析】</p>	<p>市は、発信する情報の内容や情報を伝えたい相手に適した媒体（広報紙等の紙媒体やホームページやSNS等のデジタル媒体）を選択し、効果的な情報発信に取り組んでいます。しかし、市が発信する情報の中には、市民の安全や暮らしなどへの影響が非常に大きいものもあり、発信する時期や方法については、より一層の考慮や配慮が必要とされています。また、市民主体のまちづくり活動においては、さまざまな情報発信媒体が増えてくる中で、自分たちの活動を知ってもらったり、一緒に活動できる人や連携・協力できる団体等を探したりするための場や、デジタル媒体を効果的に活用し情報発信できる人材やスキルが不足していることを、課題に感じている団体も多い状況です。</p>		
<p>審議会委員からの意見</p>	<p>なし</p>	<p>総合的評価への反映等の 考え方</p>	<p>文章の意味が、より伝わりやすくなるように微修正</p>
<p>【参考】 第1回審議会提示した総合的評価</p>	<p>市は、発信する情報の内容や情報を伝えたいターゲットに適した媒体（広報紙等の紙媒体やホームページやSNS等のデジタル媒体）を選択し、効果的な情報発信に取り組んでいます。しかし、市が発信する情報の中には、市民の安全や暮らしなどへの影響が非常に大きいものもあり、発信する時期や方法については、より一層の考慮や配慮が必要とされています。また、市民主体のまちづくり活動においては、これまでの紙媒体に加え、さまざまなデジタル媒体が増えてくる中で、自分たちの活動を知ってもらい一緒に活動できる人を探したり、新たな団体等とつながるための情報発信について、人材やスキルが不足していることを課題に感じている団体も多い状況です。</p>		

<p>調査・聞き取り 対象及び内容</p>	<p>(行政) 【令和6年度】 本市の取組事業の実施状況 及び協働のプロセス評価</p>	<p>(団体) まちづくり活動団体等 アンケート</p>	<p>(学識・団体・市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 審議会</p>	<p>(市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 推進計画策定委員会</p>
<p>総合的評価に関する 根拠や意見等 (抜粋)</p>	<p>【人づくり（仕組み全体に関する根拠等）】 推進する仕組みの「人づくり」全体では、協働の取組として合計で32事業（全体＝110事業）の報告があり、本市で学ぶ子どもたちが、地域への愛着や誇りを育むためのさまざまな取組を行っている。 (事業例) ○地域学校協働活動 ○コミュニティ・スクール ○生涯学習フェスティバル ○ふるさと学習 また、地域メディア等と連携して、自らの学習の成果や地域の魅力を発信する場や機会を提供するなど、将来の担い手の育成に資する取組を行っている。</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○協働によるまちづくり職員研修により、協働についての理解を促している。 ○各課から報告があった事業や取組について、協働した主体との役割分担や、協働による効果について顧みる機会を提供し、更なる協働の実践を促している。</p>	<p>【受け手の立場に立った情報発信・共有の推進】 ○問15 2) 現在、情報発信について困っていることや課題の有無</p>  <p>○問15 3) 現在、情報発信について困っている内容</p> 	<p>【知識・技能をまちづくりにつなげる】 ○まちづくりの方法等に関する講座(学びの場)を提供してほしい。</p> <p>【リーダーシップを発揮する人材の育成支援】 ○自主性がないと後継人材は育たない。活動も続かない。環境を整えることに尽力するべき。</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○1人残らずまちづくりに参加できる仕組みや取組も大切。 ○1人ひとりが「できること」から始めていく視点が必要。 ○町内会やコミュニティの活動に参加しやすい廿日市市にするべき。</p>	<p>【若い世代が参加しやすい機会づくり】 ○学校の授業で地域の人と地域課題を考える場が必要。 ○既存の団体が子ども、若者と積極的に関わるべき。 ○若い人を応援する体制が必要。 ○負担が大きい(今のやり方を変える) ○地域への愛着を育てていく。 ○新しいことや新しい人などを受け入れる。 ○強制感・労働力としてだけでは難しい</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○ニーズを把握した取組</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○活動資金を支援する。 ○税金を有効な事業に使うべき。 ○地域の課題解決を完全なボランティアではなく仕事にすると人が定着する。 ○職員が地域の人を知っている、知っていないのでは協働によるまちづくりが大きく変わってくる。 ○庁内での連携の強化が必要。部や課を超えて手をつなぎ、市民とも手をとって推進して欲しい。</p> <p>【協働を一步進めるために必要と感じたこと】 ○既存の団体が新しく入る人を受け入れる意識を持つ。 ○まちづくり活動に気軽に参加できる場を提供する。 ○町内会等の活動や魅力を伝えるチラシづくり。 ○同じ目的を持って活動している人や団体とのマッチング。 ○若手の意見を反映していくべき。 ○市役所の内部の連携や情報共有をすればもっとスムーズになる。 ○市職員(特に教職員)の業務負担を減らし、地域の要望に対応できる余裕をもってもらいたい。</p>

<p>第3期推進計画の 施策の方向性</p>	<p>○知識・技能をまちづくりにつなげる ○若い世代が参加しやすい機会づくり ○リーダーシップを発揮する人材の育成支援 ○人材を見いだすための交流の場や機会の提供 ○協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成</p>		
<p>(最終)総合的評価 【資料1:現状分析】</p>	<p>●市民および市は、まちづくりに関わる人材の発掘や育成に取り組んできましたが、人と人のつながりが希薄化している中、多くのまちづくり活動において、人材不足や世代交代が進まないことが、今後の活動を継続していく上での大きな課題になっています。 市民からは、「もっと、まちづくり活動などについて学べる機会が欲しい」、「未来のまちづくりを担う人材を育てるためには、子どもたちの地域への愛着を育てることが大切」、「誰もが気軽に参加できるまちづくり活動が必要」などの声が挙がっており、幅広い世代の人たちが、新たにまちづくりに興味や関心を持ち、活動をはじめたりできる場や機会が求められています。 また、既存の活動については、「これまでのやり方が変えられない」、「強制感や負担感がある」、「若い人の自主性を尊重し、応援する姿勢が必要」、「自分たちの活動の魅力をしっかりと伝えていくべき」など、新たな人材の発掘や育成に向けた、既存の運営体制や取組方法の見直しの必要性について、さまざまな声が挙がっています。 ●市は、各種研修や日々の業務を通じて、市民との協働の大切さを学び実感することで、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組んでいます。 一方で、市民からは、「市の職員が、もっと地域のこと（人、現状、歴史、伝統、文化等）を知ること、効果的にまちづくりが進められる」、「市の職員同士が連携を強め、地域の情報を共有することで、市民との協働も進んでいく」など、市の職員の、より一層の地域への理解や地域の人たちとの信頼関係の深まりを期待する声が挙げられています。 市は、こうした声をしっかりと受け止め、引き続き、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組む必要があります。</p>		
<p>審議会委員からの意見</p>	<p>① 市職員が異動すると説明が十分行き渡らないということなどがあり、市職員も各地域の歴史などを踏まえた勉強が足りていないのではないかと思います。 ② 伝統的なことに関して、そのようなことを大切にしてほしいといった言葉（例：昔ながらの伝統、文化、風習などを守った上でのまちづくり）をいれてほしい。 ③ 人権課題など新しいことに関する課題は、現状の推進計画で達成できると感じたが、例えば、環境保全、伝統継承、農業、林業、巧みの技といった内容の事業が、この内容であると問題解決しないのではないかと。</p>	<p>総合的評価への反映等の 考え方</p>	<p>①「コミュニケーション能力や政策形成能力の向上を期待する」という表現から「市の職員の地域への理解や地域の人たちとの信頼関係の深まりを期待する」という表現に修正。 ①～③市の職員が、地域のこと（人、現状、歴史、伝統、文化等）を知ることが大切であることが伝わる文章に修正。</p>
<p>【参考】 第1回審議会で提示した総合的評価</p>	<p>●市民および市は、まちづくりに関わる「人づくり」に取り組んできましたが、引き続き多くのまちづくり活動において、人材不足や世代交代が進まないことが、今後の活動を継続していく上での大きな課題になっています。 市民からは、「まちづくり活動に参加するきっかけになる講座など、学ぶ機会が欲しい」、「未来を担う人材を育てるためには、子どもたちの地域への愛着を育てることが大切」、「誰もが気軽に参加できるまちづくり活動が必要」などの声が挙がっており、幅広い世代がまちづくりに興味や関心を持ち、理解を深めるための場や機会が求められています。 また、既存の活動については、「これまでのやり方が変えられない」、「強制感や負担感がある」、「若い人の自主性を尊重し、応援する姿勢が大切」、「自分たちの活動の魅力をしっかりと伝えていくべき」など、新たな人材の育成等に向けた、既存の運営体制や取組方法の見直しの必要性について、さまざまな声が挙がっています。 ●市は、各種研修や日々の業務を通じて、市民との協働の大切さを学び実感することで、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組んでいます。 一方で、市民からは、「同じ目的を持った人や団体等とつながりたい」、「活動していくための資金が必要」など、まちづくりを進める上での課題についてや、「市の職員が、より地域の人や現状を知ること、効果的にまちづくりが進められる」、「市の職員同士が連携を強めることで、効果的な施策につながり、市民との協働も進んでいく」など、市の職員のコミュニケーション能力や政策形成能力の向上等を期待する声が挙げられています。 市は、こうした声をしっかりと受け止め、引き続き、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組む必要があります。</p>		

調査・聞き取り 対象及び内容	(行政) 【令和6年度】 本市の取組事業の実施状況 及び協働のプロセス評価	(団体) まちづくり活動団体等 アンケート	(学識・団体・市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 審議会	(市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 推進計画策定委員会																																													
<p>総合的評価に関する 根拠や意見等 (抜粋)</p>	<p>【人づくり（仕組み全体に関わる根拠等）】 推進する仕組みの「人づくり」全体では、協働の取組として合計で32事業（全体＝110事業）の報告があり、本市で学ぶ子どもたちが、地域への愛着や誇りを育むためのさまざまな取組を行っている。 (事業例) ○地域学校協働活動 ○コミュニティ・スクール ○生涯学習フェスティバル ○ふるさと学習 また、地域メディア等と連携して、自らの学習の成果や地域の魅力を発信する場や機会を提供するなど、将来の担い手の育成に資する取組を行っている。</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○協働によるまちづくり職員研修により、協働についての理解を促している。 ○各課から報告があった事業や取組について、協働した主体との役割分担や、協働による効果について顧みる機会を提供し、更なる協働の実践を促している。</p>	<p>【人づくり（仕組み全体に関わる根拠等）】 ○問12 活動を行う上での課題</p>  <table border="1"> <caption>問12 活動を行う上での課題</caption> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>自分たちだけでは地域の課題が解決できない</td><td>25.0</td></tr> <tr><td>専門知識（法律、制度等）が不足している</td><td>9.2</td></tr> <tr><td>活動場所・拠点が確保できない</td><td>5.9</td></tr> <tr><td>活動資金・資機材の調達が目撃しやすい</td><td>30.9</td></tr> <tr><td>自分たちの活動を知ってもらうことができない</td><td>13.2</td></tr> <tr><td>組立運営や活動のための情報収集が目撃しやすい</td><td>4.6</td></tr> <tr><td>メンバーの世代や性別が偏っている</td><td>37.5</td></tr> <tr><td>活動の中心になるリーダーや後継者が育たない</td><td>41.4</td></tr> <tr><td>新しい会員が増えない</td><td>44.7</td></tr> <tr><td>困ったときに気軽に相談する窓口がない</td><td>0.7</td></tr> <tr><td>活動に対する適正な評価や支援が得られない</td><td>9.2</td></tr> <tr><td>他のグループ・団体との交流がない</td><td>6.6</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3.3</td></tr> <tr><td>今のところ課題や問題点はない</td><td>5.3</td></tr> </tbody> </table> <p>○問17 2) 担い手・支え手を呼び込むための取組状況と今後の取組意向</p>  <table border="1"> <caption>問17 2) 担い手・支え手を呼び込むための取組状況と今後の取組意向</caption> <thead> <tr> <th>取組意向</th> <th>R6年度 (N=152)</th> <th>R2年度 (N=152)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在あり、今後も取り組む</td> <td>37.5</td> <td>47.4</td> </tr> <tr> <td>現在なく、今後も取り組む予定はない</td> <td>28.3</td> <td>24.3</td> </tr> <tr> <td>現在ないが、今後は取り組む予定</td> <td>29.6</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>4.6</td> <td>7.9</td> </tr> </tbody> </table>	課題	割合	自分たちだけでは地域の課題が解決できない	25.0	専門知識（法律、制度等）が不足している	9.2	活動場所・拠点が確保できない	5.9	活動資金・資機材の調達が目撃しやすい	30.9	自分たちの活動を知ってもらうことができない	13.2	組立運営や活動のための情報収集が目撃しやすい	4.6	メンバーの世代や性別が偏っている	37.5	活動の中心になるリーダーや後継者が育たない	41.4	新しい会員が増えない	44.7	困ったときに気軽に相談する窓口がない	0.7	活動に対する適正な評価や支援が得られない	9.2	他のグループ・団体との交流がない	6.6	その他	3.3	今のところ課題や問題点はない	5.3	取組意向	R6年度 (N=152)	R2年度 (N=152)	現在あり、今後も取り組む	37.5	47.4	現在なく、今後も取り組む予定はない	28.3	24.3	現在ないが、今後は取り組む予定	29.6	20.4	無回答	4.6	7.9	<p>【知識・技能をまちづくりにつなげる】 ○まちづくりの方法等に関する講座（学びの場）を提供してほしい。</p> <p>【リーダーシップを発揮する人材の育成支援】 ○自主性がないと後継人材は育たない。活動を続かない。環境を整えることに尽力するべき。</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○1人残らずまちづくりに参加できる仕組みや取組も大切。 ○1人ひとりが「できること」から始めていく視点が必要。 ○町内会やコミュニティの活動に参加しやすい廿日市市にするべき。</p>	<p>【若い世代が参加しやすい機会づくり】 ○学校の授業で地域の人と地域課題を考える場が必要。 ○既存の団体が子ども、若者と積極的に関わること。 ○若い人を応援する体制が必要。 ○負担が大きい（今のやり方を変える） ○地域への愛着を育てていく。 ○新しいことや新しい人などを受け入れる。 ○強制感・労働力としてだけでは難しい</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○ニーズを把握した取組</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○活動資金を支援する。 ○税金を有効な事業に使うべき。 ○地域の課題解決を完全なボランティアではなく仕事にすると人が定着する。 ○職員が地域の人を知っている、知っていないのは協働によるまちづくりが大きく変わってくる。 ○庁内での連携の強化が必要。部や課を超えて手をつなぎ、市民とも手を取り合って推進して欲しい。</p> <p>【協働を一歩進めるために必要と感じたこと】 ○既存の団体が新しく入る人を受け入れる意識を持つ。 ○まちづくり活動に気軽に参加できる場を提供する。 ○町内会等の活動や魅力を伝えるチラシづくり。 ○同じ目的を持って活動している人や団体とのマッチング。 ○若手の意見を反映していくべき。 ○市役所の内部の連携や情報共有をすればもっとスムーズになる。 ○市職員（特に教職員）の業務負担を減らし、地域の要望に対応できる余裕をもってもらいたい。</p>
課題	割合																																																
自分たちだけでは地域の課題が解決できない	25.0																																																
専門知識（法律、制度等）が不足している	9.2																																																
活動場所・拠点が確保できない	5.9																																																
活動資金・資機材の調達が目撃しやすい	30.9																																																
自分たちの活動を知ってもらうことができない	13.2																																																
組立運営や活動のための情報収集が目撃しやすい	4.6																																																
メンバーの世代や性別が偏っている	37.5																																																
活動の中心になるリーダーや後継者が育たない	41.4																																																
新しい会員が増えない	44.7																																																
困ったときに気軽に相談する窓口がない	0.7																																																
活動に対する適正な評価や支援が得られない	9.2																																																
他のグループ・団体との交流がない	6.6																																																
その他	3.3																																																
今のところ課題や問題点はない	5.3																																																
取組意向	R6年度 (N=152)	R2年度 (N=152)																																															
現在あり、今後も取り組む	37.5	47.4																																															
現在なく、今後も取り組む予定はない	28.3	24.3																																															
現在ないが、今後は取り組む予定	29.6	20.4																																															
無回答	4.6	7.9																																															

<p>第3期推進計画の 施策の方向性</p>	<p>〇互いを知り合う場の充実 〇市による評価及び支援</p>		
<p>(最終) 総合的評価 【資料1:現状分析】</p>	<p>市は、市民が取り組む活動が、公共の利益を生むまちづくり活動である場合、補助金の交付や地域貢献活動保険の整備、各種表彰制度による表彰、市の広報媒体を使った情報発信など、さまざまな方法で活動の支援を行っています。しかし、少子・高齢化や定年延長等、さまざまな社会情勢の変化に伴い、まちづくり活動を続けていく上での課題やニーズは多様化・複雑化していることから、従来通りの支援だけではなく、より現状の課題やニーズに応じた適切な支援が求められています。</p>		
<p>審議会委員からの意見</p>	<p>なし</p>	<p>総合的評価への反映等の 考え方</p>	<p>—</p>
<p>【参考】 第1回審議会で提示した総合的評価</p>	<p>市は、市民が取り組む活動が、公共の利益を生むまちづくり活動である場合、補助金の交付や地域貢献活動保険の整備、各種表彰制度による表彰、市の広報媒体を使った情報発信など、さまざまな方法で活動の支援を行っています。しかし、少子・高齢化や定年延長等、さまざまな社会情勢の変化に伴い、まちづくり活動を続けていく上での課題やニーズは多様化・複雑化していることから、従来通りの支援だけではなく、より現状の課題やニーズに応じた適切な支援が求められています。</p>		

<p>調査・聞き取り 対象及び内容</p>	<p>(行政) 【令和6年度】 本市の取組事業の実施状況 及び協働のプロセス評価</p>	<p>(団体) まちづくり活動団体等 アンケート</p>	<p>(学識・団体・市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 審議会</p>	<p>(市民) 廿日市市 協働によるまちづくり 推進計画策定委員会</p>
<p>総合的評価に関する 根拠や意見等 (抜粋)</p>	<p>【人づくり（仕組み全体に関わる根拠等）】 推進する仕組みの「人づくり」全体では、協働の取組として合計で32事業（全体＝110事業）の報告があり、本市で学ぶ子どもたちが、地域への愛着や誇りを育むためのさまざまな取組を行っている。 (事業例) ○地域学校協働活動 ○コミュニティ・スクール ○生涯学習フェスティバル ○ふるさと学習 また、地域メディア等と連携して、自らの学習の成果や地域の魅力を発信する場や機会を提供するなど、将来の担い手の育成に資する取組を行っている。</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○協働によるまちづくり職員研修により、協働についての理解を促している。 ○各課から報告があった事業や取組について、協働した主体との役割分担や、協働による効果について顧みる機会を提供し、更なる協働の実践を促している。</p>	<p>【評価及び支援（仕組み全体に関わる根拠等）】 〇問12 活動を行う上での課題</p> 	<p>【知識・技能をまちづくりにつなげる】 ○まちづくりの方法等に関する講座(学びの場)を提供してほしい。</p> <p>【リーダーシップを発揮する人材の育成支援】 ○自主性がないと後継人材は育たない。活動も続かない。環境を整えることに尽力するべき。</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○1人残らずまちづくりに参加できる仕組みや取組も大切。 ○1人ひとりが「できること」から始めていく視点が必要。 ○町内会やコミュニティの活動に参加しやすい廿日市市にするべき。</p>	<p>【若い世代が参加しやすい機会づくり】 ○学校の授業で地域の人と地域課題を考える場が必要。 ○既存の団体が子ども、若者と積極的に関わるべき。 ○若い人を応援する体制が必要。 ○負担が大きい(今のやり方を変える) ○地域への愛着を育てていく。 ○新しいことや新しい人などを受け入れる。 ○強制感・労働力としてだけでは難しい</p> <p>【人材を見いだすための交流の場や機会の提供】 ○ニーズを把握した取組</p> <p>【協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成】 ○活動資金を支援する。 ○税金を有効な事業に使うべき。 ○地域の課題解決を完全なボランティアではなく仕事にする人が定着する。 ○職員が地域の人を知っている、知っていないのでは協働によるまちづくりが大きく変わってくる。 ○庁内での連携の強化が必要。部や課を超えて手をつなぎ、市民とも手を取り合って推進して欲しい。</p> <p>【協働を一歩進めるために必要と感じたこと】 ○既存の団体が新しく入る人を受け入れる意識を持つ。 ○まちづくり活動に気軽に参加できる場を提供する。 ○町内会等の活動や魅力を伝えるチラシづくり。 ○同じ目的を持って活動している人や団体とのマッチング。 ○若手の意見を反映していくべき。 ○市役所の内部の連携や情報共有をすればもっとスムーズになる。 ○市職員(特に教職員)の業務負担を減らし、地域の要望に対応できる余裕をもってもらいたい。</p>

<p>第3期推進計画の 施策の方向性</p>	<p>○協働の理念共有 ○協働によるまちづくりの実践・成果の共有</p>		
<p>(最終)総合的評価 【資料1:計画の趣旨】 ※計画内では「計画の趣旨」に適した文章に変更している箇所があります</p>	<p>本市では、平成24年3月に制定した「廿日市市協働によるまちづくり基本条例（以下「条例」という。）」に基づき「廿日市市協働によるまちづくり推進計画（以下「計画」という。）」を策定し、めざすまちの姿（新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き!」と言えるまち）の実現に取り組んでいます。 これまでの3期にわたる計画では、市の職員の協働に対する意識強化をはじめ、さまざまな人や組織の力を、日々の仕事（公共の取組）に生かし、より豊かな成果につなげていく「協働型」の取組を実践し、評価や検証、改善を繰り返しながら、協働による持続可能なまちづくりを推進してきました。 第4期の計画では、本市のまちづくりに関わるさまざまな人や組織の協力のもと分析・評価した「協働によるまちづくりの現状」を踏まえ、これまでの取組を継承・発展させるとともに、「協働によるまちづくり」を確実に推進していくための取組方針を新たに定め、協働によるまちづくりを推進する必要があります。</p>		
<p>審議会委員からの意見</p>	<p>第1期から第3期までの計画自体の振り返りや、第4期でどう変わろうとしているのかの記述が必要ではないか。</p>	<p>総合的評価への反映等の考え方</p>	<p>これまでの計画を振り返る文章を追記し、第4期の計画では、これまでの取組を継承・発展させるとともに、現状を踏まえ、市の責務を果たし、「協働によるまちづくり」を確実に推進していく旨を記載しました。</p>
<p>【参考】 第1回審議会で提示した総合的評価</p>	<p>市は、「廿日市市協働によるまちづくり基本条例」に基づき「廿日市市協働によるまちづくり推進計画」を策定し、さまざまな人や組織との「協働型」の取組を通じて、めざすまちの姿（新しいつながり、より深いつながりを育み、市民同士、市民と行政が一体となって「はつかいちが好き!」と言えるまち）の実現に取り組んでいます。 「第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画」では、これまでの計画を継承・深化させるとともに、私たちが直面している社会情勢の実情を踏まえた取組を着実に実践し、市の責務を果たしていくことで、より一層の「協働によるまちづくり」を推し進めていく必要があります。</p>		

<p>協働によるまちづくりを推進する仕組み</p>	<p>特性を生かしたまちづくり (総合的評価シート①)</p>	<p>情報発信による信頼関係づくり (総合的評価シート②)</p>	<p>人づくり (総合的評価シート③)</p>	<p>評価及び支援 (総合的評価シート④)</p>
<p>総合的評価</p>	<p>市民が取り組むまちづくり活動において、多様な主体がつながり連携・協力することで、「活動を通じて地域内での知り合いが増えた」、「協働した相手との新たな活動が生まれた」、「活動の広報がしやすくなり、集客が増えた」など、協働によるさまざまな効果が生まれてきています。 また、まちづくりの拠点については、市が各種事業等を通じてまちづくりに取り組むことはもちろん、市民のまちづくり活動の主な活動場所や相談先としても活用されています。 一方で、市民からは、まちづくりの拠点の運営体制等について、「気軽に、職員に相談できる雰囲気が必要」、「十分な引き継ぎが行われないまま職員が異動すると、一緒に進めてきた活動が停滞してしまうことがある」、「市の職員は、もっと地域とのつながりをもつべき」など、さまざまな課題の声が挙がっており、改善が求められています。 また、多様な主体がつながり、まちづくりについて話し合う場「円卓会議」については、開催または参加したことがある市民の多くが、その有効性を感じている一方で、まちづくりに関わる市民からは、「もっと多様な主体が話し合う場が必要」、「同じ目的をもった人や団体等とつながりたい」、「収益を得ながらまちづくり活動を進める方法（コミュニティビジネス等）についての情報が欲しい」など、他の主体とのつながりや情報共有の場を求める声が少ないことから、「円卓会議」の十分な認知や活用にはつながっていない状況がうかがえます。</p>	<p>市は、発信する情報の内容や情報を伝えたい相手に適した媒体（広報紙等の紙媒体やホームページやSNS等のデジタル媒体）を選択し、効果的な情報発信に取り組んでいます。 しかし、市が発信する情報の中には、市民の安全や暮らしなどへの影響が非常に大きいものもあり、発信する時期や方法については、より一層の考慮や配慮が必要とされています。 また、市民主体のまちづくり活動においては、さまざまな情報発信媒体が増えてく中で、自分たちの活動を知ってもらったり、一緒に活動できる人や連携・協力できる団体等を探したりするための場や、デジタル媒体を効果的に活用し情報発信できる人材やスキルが不足していることを、課題に感じている団体も多い状況です。</p>	<p>●市民および市は、まちづくりに関わる人材の発掘や育成に取り組んできましたが、人と人とのつながりが希薄化している中、多くのまちづくり活動において、人材不足や世代交代が進まないことが、今後の活動を継続していく上での大きな課題になっています。 市民からは、「もっと、まちづくり活動などについて学べる機会が欲しい」、「未来のまちづくりを担う人材を育てるためには、子どもたちの地域への愛着を育てることが大切」、「誰もが気軽に参加できるまちづくり活動が必要」などの声も挙がっており、幅広い世代の人たちが、新たにまちづくりに興味や関心を持ったり、活動をはじめたりできる場や機会が求められています。 また、既存の活動については、「これまでのやり方が変えられない」、「強制感や負担感がある」、「若い人の自主性を尊重し、応援する姿勢が必要」、「自分たちの活動の魅力をしっかりと伝えていくべき」など、新たな人材の発掘や育成に向けた、既存の運営体制や取組方法の見直し必要性について、さまざまな声も挙がっています。 ●市は、各種研修や日々の業務を通じて、市民との協働の大切さを学び実感することで、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組んでいます。 一方で、市民からは、「市の職員が、もっと地域のこと（人、現状、歴史、伝統、文化等）を知ることで、効果的にまちづくりが進められる」、「市の職員同士が連携を強め、地域の情報を共有することで、市民との協働も進んでいく」など、市の職員の、より一層の地域への理解や地域の人たちとの信頼関係の深まりを期待する声も挙がっています。 市は、こうした声をしっかりと受け止め、引き続き、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員の育成に取り組む必要があります。</p>	<p>市は、市民が取り組む活動が、公共の利益を生むまちづくり活動である場合、補助金の交付や地域貢献活動保険の整備、各種表彰制度による表彰、市の広報媒体を使った情報発信など、さまざまな方法で活動の支援を行っています。 しかし、少子・高齢化や定年延長等、さまざまな社会情勢の変化に伴い、まちづくり活動を続けていく上での課題やニーズは多様化・複雑化していることから、従来通りの支援だけではなく、より現状の課題やニーズに応じた適切な支援が求められています。</p>

令和7年8月22日

廿日市市協働によるまちづくり審議会

会 長 山 川 肖 美 様

廿日市市長 松本 太郎

協働によるまちづくりの推進に関することについて（諮問）

廿日市市協働によるまちづくり基本条例第17条第2項の規定により、次の事項について貴審議会の意見を求めます。

（諮問事項）

- （1）協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価に関すること。
- （2）協働によるまちづくり推進計画に関すること。

（諮問理由）

本市は、平成24（2012）年に制定した「廿日市市協働によるまちづくり基本条例」に基づき、廿日市市協働によるまちづくり推進計画（以下、「計画」という。）を策定し、協働によるまちづくりを推進してきましたが、令和7年度に現行計画（第3期）が最終年次となるため、本市の協働によるまちづくりの実施状況について検証・評価するとともに、今後の社会情勢や地域課題等の変化を見据えた第4期計画を策定する必要があります。

つきましては、協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価およびその評価を踏まえた第4期計画についてご審議願います。

(案)

令和 8年 3月11日

廿日市市長 松本 太郎 様

廿日市市協働によるまちづくり審議会
会 長 山 川 肖 美

協働によるまちづくりの推進に関することについて (答申)

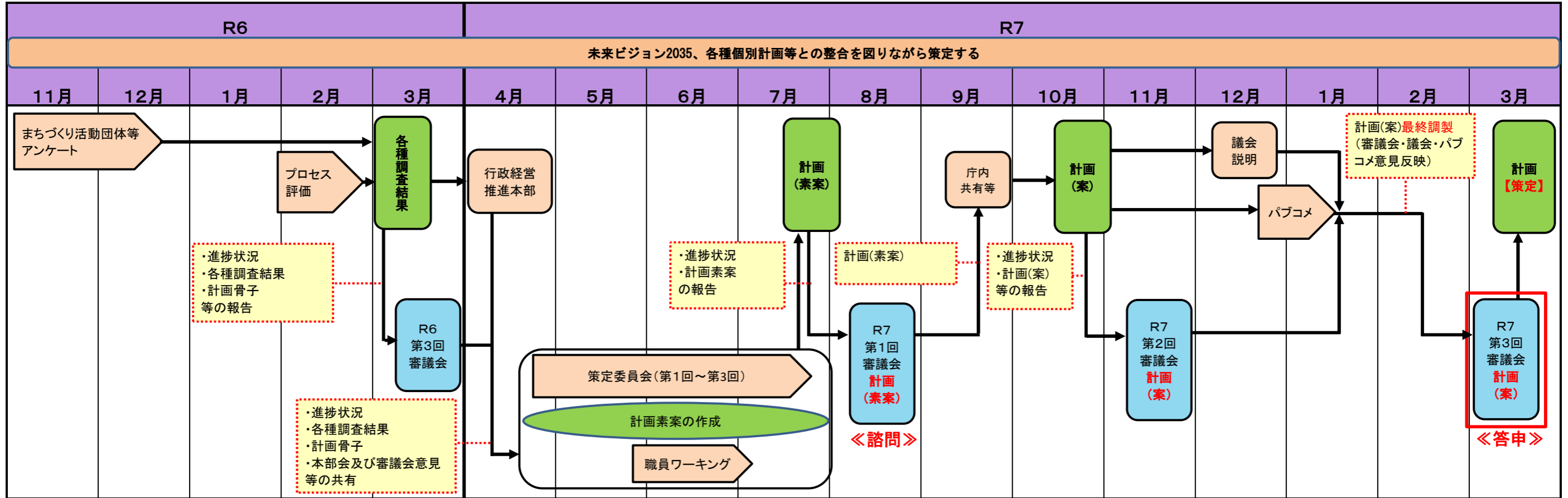
令和7年8月22日付けで諮問のあったことについて、当審議会において審議を行った結果、「協働によるまちづくりの実施状況に係る総合的評価(案)」及び「第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画(案)」を適当であると認めます。

なお、今後5年間の計画の運用にあたっては、次の点に配慮されるよう申し添えます。

- 1 子どもや若者を含む多くの市民が、本市の協働によるまちづくりに関する方針や取組を知り、理解を深め、ますますまちづくりに参画していけるよう、本計画の趣旨や取組等について、広く市民に行き渡るよう努めてください。
- 2 世代や立場、地域等を超えてさまざまな市民がつながり、それぞれが得意なことを生かしながらまちづくりに取り組み、そこで得た知識や経験を共に分かち合い、未来へ継承していけるよう、垣根を越えた交流や協働を促す環境づくりに努めてください。
- 3 市の各部局の取組において、本計画に書かれた趣旨と市職員の役割を理解し、鋭意、協働のまちづくりの理念を反映するように努めてください。
- 4 本計画の策定過程において出された委員や市民の多くの貴重な意見・提案の趣旨を可能な限り尊重し、今後の協働によるまちづくりの推進に生かしてください。

第4期協働によるまちづくり推進計画策定等スケジュール(案)

(資料6)



第4期計画期間中の審議会スケジュール(案)

